

《専門教育科目》

科目名	インターンシップ I	科目ナンバリング	T03F22068
担当者氏名	大江 実代子, 關 浩和, 赤井 利行, 井上 朋子, 河野 楢, 林 敦司	担当形態	共担
授業方法	実習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ 通年 (I 期)

《授業の概要》

学校教育現場におけるインターンシップおよび事前事後の学内授業を通して、学問知（理論知）と実践知の往還を目指す。学校現場では、児童理解を一層深めるとともに、教員の役割や使命、職務を知る。また、指導の具体に触れ、指導者としての視点を学ぶ。特に、実習後に行う報告会では、他の学習者と指導のあり方について意見を交流することを重視し、次年度以降の教育実習・保育実習に生かすというプロセスを踏む。

《テキスト》

授業時にハンドアウトを配布する。

《参考図書》

文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』，小学校学習指導要領
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）『幼保連携型認定こ

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	地域の多様な人たちと関わりをもち、幼児や児童への言葉かけや行動に着目し、効果的な指導のあり方を探究して地
○ 1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	教育者としての自覚をもち、特別な配慮を要する幼児や児童の指導も含めて、効果的な指導のあり方を探究して、教
○ 1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	教育者としての自覚をもち、保育や授業の準備物、板書、発問等に注目して、幼児や児童の学びに学級経営が密接に

《授業外学習》

- ・新聞、テレビ、Web等での教育に関する時事問題に関心を持ち、教師の視点で問題を捉える。
- ・小学校、幼稚園教育の指導に関する文献にあたり、多角的な視点をもって、実習に臨む。
- ・実習記録は毎日丁寧に記録する。

《学習状況・理解度の確認》

- ・インターンシップにおいて学んだことを整理して、報告会において個々の学びを交流することで学びをさらに深化させ、次年度以降に実施される教育実習において発展させる。

《備考》

- ・多角的な視点で教師の指導を観察し、指導のポイントを押さえる。Internship I

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	50
授業内課題	0
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	インターンシップガイダンス	インターンシップの心得として、意義、目的、留意事項を確認し、各種必要書類の作成を行う。	実施校について調べておく。	45
2	指導者の視点	指導者がどのような心構えで授業を展開したり生徒指導を行ったりするのか、指導者の視点をキーワードに考える。	内容や流れを確認し、考察す	45
3	インターンシップ実践 1	幼稚園、小学校において、主として、クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し、記録する。	遊びを中心にふれあいについて	120
4	インターンシップ実践 2	幼稚園、小学校において、主として、クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し、記録する。	実習記録記載	45
5	インターンシップ実践 3	幼稚園、小学校において、主として、クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し、記録する。	実習記録記載	60
6	インターンシップ実践 4	幼稚園、小学校において、主として、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し、記録する。	実習記録記載	60
7	インターンシップ実践 5	幼稚園、小学校において、主として、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し、記録する。	実習記録記載	60
8	インターンシップ実践 6	幼稚園、小学校において、主として、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し、記録する。	実習記録記載	60
9	インターンシップ実践 7	幼稚園、小学校において、主として、校務分掌についてその職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。	実習記録記載	60
10	インターンシップ実践 8	幼稚園、小学校において、主として、校務分掌についてその職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。	実習記録記載	60
11	インターンシップ実践 9	幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方を学び、記録する。	実習記録記載	60
12	インターンシップ実践 10	幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方を学び、記録する。	実習記録記載	60
13	インターンシップリフレクション	幼稚園、小学校において、視点を変えて観察したことを振り返りながらまとめ、報告会の準備をする。	実習記録記載	60
14	インターンシップ報告会 1	「報告書」をもとに学びの交流を行う。(グループ)	交流を通して新たな気づきや発	60
15	インターンシップ報告会 2	「報告書」をもとに学びの交流を行う。(全体)	交流を通して新たな気づきや発	60

《専門教育科目》

科目名	こどもとサイエンス（こどもと科学遊び）			科目ナンバリング	T02S22014
担当者氏名	安部 洋一郎			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期

《授業の概要》

幼稚園教諭や保育士にとっては、幼児が遊びに夢中になれるよう環境を構成し見守り幼児とともに活動することが求められる。本授業では学生の協働により様々な科学遊びを行う。遊びを通して学生自身が科学遊びを好きになり、幼児の遊びを支援する力を養うことを目指す。

《授業外学習》

準備・計画や片付けなど、科学遊びを行うために必要な活動を課外時間に行う。

《テキスト》

なし

《学習状況・理解度の確認》

授業内の活動にて十分な理解を示しているかどうかを評価する。

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』

《備考》

Science for Children

- ・授業ではディスカッション、実習、グループワークを行う。
- ・活動内容によっては汚れてもいい服装を準備する必要がある。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	仲間と協力し合って活動を行い、楽しさを共有することができる。仲間と協働して実践の計画準備、実施、片づけを行うことができる。
◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	仲間と協働して実践の計画準備、実施、片づけを行い、活動を学びにつなげることができる。
○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	子どもの科学性の芽生えを遊びにつなげる専門性を持ち、体系的に指導を行うことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	50
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	科学遊びとこどもの学び	オリエンテーション 科学遊びの意味を学ぶ	授業の振り返りを行う	90
2	科学遊びの実践1	こむぎねんど等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
3	科学遊びの実践2	生き物さがし等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
4	科学遊びの実践3	泥団子づくり等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
5	科学遊びの実践4	磁石あそび等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
6	科学遊びの実践5	ちりめんモンスター等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
7	科学遊びの実践6	浮沈子等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
8	科学遊びの実践7	ビュンビュンごまづくり等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
9	科学遊びの実践8	葉脈標本づくり等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
10	科学遊びの実践9	鏡づくり等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
11	科学遊びの実践10	圧力等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
12	科学遊びの実践11	顕微鏡等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
13	科学遊びの実践12	スライムづくり等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
14	科学遊びの実践13	化石等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90
15	まとめ	活動を振り返り、改めて科学遊びの意味を学ぶ	授業の振り返りを行う	90

《専門教育科目》

科目名	こどもと環境	科目ナンバリング	T02S21011
担当者氏名	高畑 芳美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

幼稚園教育要領等に示された保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらいと内容を通し、乳幼児の身近な環境の基本的な捉え方を理解する。子どもが主体的に環境とかかわる力を育てるという視点から、演習を通じて環境の意味や特性、保育者の役割について考える。

《授業外学習》

・テキスト、参考書、授業時に配布されたプリントは毎回授業時に持参すること。

《テキスト》

新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境
無藤隆 監修
福元真由美 編者

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《学習状況・理解度の確認》

・分からないことは授業内、または授業終了後に随時質問を受けつける。
・課題については評価をした後、授業の中でフードバックをする。

《備考》

・グループワークやディスカッションを行う。
・科目担当者は、実務経験者（保育園・幼稚園勤務経歴有り）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	領域「環境」のねらいと内容を理解することができる。
	乳幼児の発達に即した環境とかかわる過程を理解することができる。
	具体的な保育の場面を想定し、保育を構想する力を身につける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	40
レポート	20
発表・実技	40
授業内課題	0
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション：環境とは	本授業の概要と目標を理解し、授業方法や進め方について確認し、課題意識を持つ。	テキストの通読	45
2	領域「環境」のねらいと内容	5領域の全体構成と領域「環境」の理解、保育内容とのつながりを知る。	幼稚園教育要領の通読	45
3	保育における子どもの環境	保育における「身近な環境」と一般の「環境」との違いを知り、子どもの育ちに必要環境について考える。	テキストの課題1	45
4	乳児保育における「身近なもの」と関わり感性が育つとは	実際に身近なものを使って、心が動く実践を体験し、子どもの育ちを理解する。	テキストの通読	45
5	1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の領域「環境」とは	領域「環境」のねらいの連続性と内容の取扱い方の違いを検討する。	テキストの課題2	45
6	自然とのかかわり①	自然の特性や種類を知り、グループで見つけた自然物で遊びを考える。	秋の自然物収集	60
7	自然とのかかわり②	自然物を活用した遊びについてグループワークを行い、自然物を活用した遊びの発表と全体のまとめを行う。	レポートの振り返り	60
8	自然とのかかわりを支える保育の展開	飼育・栽培を取り入れた保育環境について考え、計画を立てる。	栽培計画の立案	45
9	モノとのかかわり①	身の回りのモノ（園内環境）を通した子どもの育ちと、年齢発達を理解する。	テキストの通読	45
10	モノとのかかわり②	廃材等を使ったモノの特質を生かす製作活動について検討する。（ICTを使った調べ学習）	製作物の準備	45
11	モノとのかかわりを支える保育の展開	モノを通した環境づくりと様々な素材を活かした遊びの展開を考え、発表する。	製作手順を記したレポート作成	45
12	社会とのかかわり①	地域の施設や人々とのかかわりについて考える。（ICTを使った調べ学習）	テキストの通読	45
13	社会とのかかわり②	様々な文化や保育における行事とのかかわりについて考える。（グループワーク）	行事を取り入れた遊びの収集	45
14	社会とのかかわりを支える保育の展開	子どもの姿をもとに、地域資源や様々な文化を保育に活用する方法を発表する。（グループワーク）	発表準備	60
15	現代保育の課題と領域「環境」	多文化共生保育やインクルーシブ教育なども含め、今までの学びの確認をする。	授業内容の整理	45

《専門教育科目》

科目名	こどもと健康	科目ナンバリング	T02S21009
担当者氏名	日坂 歩都恵	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

領域「健康」の指導は、子どもの心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項についての知識や技能を身につける。子どもの心身の健康状態を把握する方法、病気とその予防等の安全管理や安全教育、運動発達の理解をする。演習形式により、保育者としての、子どもの健康を守り育てるために必要な知識と技能を身に付ける。

《授業外学習》

・テキストを指定した範囲や配布資料は必ず通読してくる。健康的な基本的な生活に関心を持ち、指定した語句や項目について調べてくる。

《テキスト》

『保育者をめざすあなたへー子どもと健康ー 第2版』 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行編 みらい 2019年

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として小レポートを提出し、返却し、授業の理解度を確認する。

《参考図書》

文部科学省(2018)『幼稚園教育要領』、厚生労働省(2018)『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び解説

《備考》

・科目担当者は、実務経験者(幼稚園勤務歴あり)である。Children and Health

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。	・乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を理解し、具体的な保育実践につながる基盤を培う。
幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。	乳幼児の体の発達の特徴と基本的な生活習慣の形成とその意義を理解することができる。
幼児期の運動発達と身体活動を理解する。	幼児期に多様な動きを獲得することの意義を理解し、日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動のあり方を理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	30
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子どもの健康とは	健康の定義、乳幼児期の健康の意義を理解	プリント・資料の復習	45
2	領域「健康」のねらい・内容	保育内容における領域「健康」のねらいと内容	プリント・資料の復習	45
3	子どもの基本的な生活習慣(睡眠)	子どもの体格との特徴や生理機能	プリント・資料の復習	45
4	子どもの身体的発達の理解(体格)	子どもの器官等の発育・発達の特徴	実践での学びの整理	45
5	子どもの基本的な生活習慣(睡眠)	基本的習慣の自立の重要性(睡眠)	プリント・資料の復習	45
6	子どもの基本的な生活習慣(食事・排泄)	基本的習慣の自立の重要性(食事・排泄)	プリント・資料の復習	45
7	子どもの基本的な生活習慣(清潔・衣服の着脱)	基本的習慣の自立の重要性(清潔・衣服の着脱)	プリント・資料の復習	45
8	日常生活における運動	社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方	プリント・資料の復習	45
9	遊びとしての運動	子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方	指導案作成と模擬保育準備	60
10	食育と栄養	食育のねらいと内容、食育の実践	指導案作成と模擬保育準備	60
11	子どもの感染症	保育における感染症の予防と対応	模擬保育の振り返りと評価	90
12	子どもの事故や病気	子どもの事故や病気等のその対応	プリント・資料の復習	45
13	安全保育と危機管理	子どもにおける安全保育と危機管理	プリント・資料の復習	45
14	子どもの発育・発達の測定法の活用	子どもの体格・運動能力測定の方法と評価	プリント・資料の復習	45
15	学習のまとめと振り返り	現在の子どもの健康課題と展望	プリント・資料の復習	60

《専門教育科目》

科目名	こどもと言葉	科目ナンバリング	T02S21012
担当者氏名	石川 恵美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

領域「言葉」の指導の基礎となる子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識及び技能を学ぶ。子どもが年齢に応じた「言葉」を獲得する意義と機能について理解し、保育者として子どもの言葉を引き出すため、視聴覚教材等ICTを活用し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践について、演習を通じて授業を展開する。

《授業外学習》

子どもと関わる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレポーターを増やす。

《テキスト》

『新・保育と言葉』石上浩美編 嵯峨野書院 2022年

《学習状況・理解度の確認》

分からないことがあれば、授業終了後に質問を受け付ける。指導案は、添削しコメントを付して返却する。

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』 他適宜、授業内で紹介する。

《備考》

保育実践教室で授業を実施する場合もある。担当者は、幼稚園教諭・保育士として幼稚園・保育所勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	乳幼児の言葉の発達過程と、言葉の機能について説明できる。
◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、子どもの発達の姿と合わせて説明できる。
○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	子どもの発達における児童文化財の意義について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容とは。絵本の読み聞かせの意義について考える。	テキスト通読	45
2	保育の基本と言葉の獲得に関する領域「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。	テキスト通読	45
3	乳児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者との関わりを知る。乳児向けの絵本について学ぶ。	テキスト通読	45
4	幼児期の言葉の発達①	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びの中の「言葉」を理解する。	テキスト通読	45
5	幼児期の言葉の発達②	話し言葉・書き言葉の獲得のプロセスについて学ぶ。	テキスト通読	45
6	手段・道具としての言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。オノマトペや動きを誘発する言葉の具体例について学ぶ。	テキスト通読	45
7	言葉の獲得に関する領域「言葉」と他領域との関係①	身体機能の発達と「言葉」について学ぶ。知覚・認知機能の発達と「言葉」について学ぶ。	テキスト通読	45
8	言葉の獲得に関する領域「言葉」と他領域との関係②	保育内容「言葉」と他の4領域との関係性について学ぶ。	テキスト通読	45
9	言葉の獲得に関する領域「言葉」の指導計画と評価	指導計画の種類や内容及び評価について知り、保育の展開の仕方について学ぶ。	テキスト通読	45
10	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際	子どもと楽しむ「言葉遊び」について考える。	「言葉遊び」について調べる	45
11	言葉の遅れのある子ども等に対する「言葉」の支援①	言葉の遅れについて考える。発達障害について学ぶ。	テキスト通読	45
12	言葉の遅れのある子ども等に対する「言葉」の支援②	言葉の遅れや発達障害の子どもに対する「言葉」の支援方法を知る。	テキスト通読	45
13	「言葉」の世界を広げる児童文化財①	絵本・物語・紙芝居等の児童文化財の意義について学ぶ。	絵本の読み聞かせ練習	45
14	「言葉」の世界を広げる児童文化財②	絵本・物語・紙芝居等の児童文化財を子どもに伝える際の留意点を学ぶ。	紙芝居の読み聞かせ練習	45
15	学習のまとめと振り返り	授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。	到達目標の達成度を確認する	45

《専門教育科目》

科目名	こどもと人間関係			科目ナンバリング	T02S21010
担当者氏名	磯野 久美子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 1 年 ・ I 期

《授業の概要》

現代社会の子どもを取り巻くさまざまな課題について学び、保育の場で保障されるべき乳幼児期の人間関係の育ちについて理解を深める。領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえ、乳幼児期の人間関係の発達、環境や遊びを通してどのように促されていくのかを具体的な事例等から学ぶ。

《授業外学習》

テキストや参考図書の該当箇所を読み、領域「人間関係」の内容を理解するよう努める。

《テキスト》

『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』菊地篤子[著]みらい2022

《学習状況・理解度の確認》

授業ごとに課題を提出し、その内容から学びの確認をする。

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《備考》

・科目担当者は、幼稚園教諭及び、保育士資格を持つ実務経験者である。
・ディスカッション、グループワークを行う。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	乳幼児期の遊びや生活の中で育つ、人と関わる力の発達について説明できる。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	人と関わる力を養う領域「人間関係」の基礎的知識や技能の習得を確認する。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	保育における人間関係にかかわる指導のあり方について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	30
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の全体像を把握し、到達目標を理解する。	テキスト・資料の確認	45
2	現代社会と人間関係	子どもを取り巻く今日の状況や課題を踏まえ、子どもと人間関係の現状を学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
3	領域「人間関係」とは	領域「人間関係」のねらいと内容について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
4	乳幼児の発達と人間関係①	乳児の育ちと人間関係のあり方について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
5	乳幼児の発達と人間関係②	1歳以上3歳未満児の育ちと人間関係のあり方について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
6	乳幼児の発達と人間関係③	3歳以上児の育ちと人間関係のあり方について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
7	遊びの中で育つ人間関係	乳幼児期における遊びを通じた人間関係について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
8	環境と人間関係	子どもの人と関わる力の育ちについてディスカッションを交えながら考察する。	テキスト・資料の確認	45
9	自立心や協同性の育ち	子どもの自立心や協同性はどのような体験を通して育つのかを学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
10	道徳性や規範意識の育ち	子どもの道徳性や規範意識はどのような体験を通して育つのかを学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
11	保育者と保護者の人間関係	保護者との人間関係の構築について考え、よりよい支援と連携のあり方を学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
12	人間関係のひろがり	地域の人々との関わりや幼小連携における人間関係の育ちについて学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
13	保育者が紡ぐ人間関係	保育者自身の人間関係と子ども理解について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45
14	人間関係を育む	子どもの人間関係を育むとはどのようなことなのか、ディスカッションを交えながら、考察する。	テキスト・資料の確認	45
15	振り返り、まとめ	子どもの人間関係を育むとはどのようなことなのか、授業を振り返り、考察する。	全体の振り返り	45

《専門教育科目》

科目名	こどもと表現	科目ナンバリング	T02S21013
担当者氏名	半田 結,立本 千寿子,永井 夕起子	担当形態	オムニバス
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

子どもの表現は、他の領域と相互に関連しあい総合的に発達していくことをふまえながら、音楽・造形・身体などの表現領域を中心に、子どもの表現の姿やその発達の様子、感性や創造性を豊かにする様々な遊びや環境の構成などについて、演習を通じて実践的に学びます。子どもが表現することの喜びを感じ感性を磨いていけるように、授業では、諸感覚を通した様々な表現活動を通して、知識や技能、表現力を身につけます。

《授業外学習》

○ボランティアなどを通じて子どもと直接かかわる機会を持ちましょう
○音楽やダンス、パフォーマンス、演劇、美術などのアートに触れる機会をもちましょう

《テキスト》

松家まきこ・鈴木範之編『実践 心ふれあう子どもと表現』みらい、2022

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業で、学習内容の確認と次回授業への準備・予習課題があります。提出物や課題に対してはコメントや評価をし、必要な場合は再提出を求めます。

《参考図書》

参考書・参考資料等
文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』

《備考》

授業の教室や場所を変更して行うことがあります。授業前には、manaba等、必ず確認するようにしてください。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	子どもの表現の姿やその発達を理解する。子どもの遊びや生活にみられる「表現」をとらえることができる。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	音楽・造形・身体表現などの様々な表現の知識・技能を身につける。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め、より豊かな表現につなげていくことができる。様々な表現の知識・技能を活用して、子どもの表現活動を展開させる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	50
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション ～表現に出会う	領域「表現」と子どもの表現	テキストpp.12-30	45
2	子どもの身体表現と発達①	全身を使って表現を楽しむ	テキストpp.77-83	45
3	子どもの身体表現と発達②	イメージを広げて遊ぶ	テキストpp.69-75	45
4	子どもの身体表現と発達③	身近にあるもので表現を引き出して遊ぶ①	テキストpp.85-92	45
5	子どもの身体表現と発達④	身近にあるもので表現を引き出して遊ぶ②	テキストpp.94-99	45
6	子どもの造形表現と発達①	素材との出会い①パスとクレヨン	テキストpp.100-106	45
7	子どもの造形表現と発達②	素材との出会い②紙、絵具	テキストpp.107-111	45
8	子どもの造形表現と発達③	身近にあるもので作る①枝や葉、木の実などの自然物	テキストpp.112-120	45
9	子どもの造形表現と発達④	身近にあるもので作る②空き箱やペットボトルなどのリサイクル材	テキストpp.121-141	45
10	子どもの音楽表現と発達①	「聴く」ことからはじまる・広がる表現の世界	テキストpp.13-101	45
11	子どもの音楽表現と発達②	相互作用としての手遊びの役割と表現	テキストpp.41-52	45
12	子どもの音楽表現と発達③	日本と世界の音楽と表現－わらべうた、民族楽器	テキストpp.53-62	45
13	子どもの音楽表現と発達④	様々な楽器による音楽遊びとアンサンブル表現	テキストpp.63-67	45
14	いろいろな表現を取り入れた遊び	複数の表現領域を組み合わせた遊びを作る	他領域と組み合わせた遊びを考	45
15	振り返りとまとめ	これまでの内容を振り返り、自分の表現の特徴や課題について振り返る	自分の表現の特徴や課題を理解	45

《専門教育科目》

科目名	ふれあい体験活動	科目ナンバリング	T03F21067
担当者氏名	大江 実代子, 石川 恵美, 磯野 久美子	担当形態	単独
授業方法	実習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

・本授業では、幼稚園・小学校において、子どもたちとのふれあいを中心とし、見学・観察・参加の体験を通して児童理解を深め、教員となる意欲と構えを養う。

《授業外学習》

・新聞、テレビ、Web等での教育に関する時事問題に関心を持ち、教師として問題を捉える。
 ・多角的な視点を持ち「子どもとのふれあい」について調べる。
 ・実習記録は毎日丁寧に記録する。

《テキスト》

授業時にハンドアウトを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・実習校において授業や生徒指導等、観察したことや考察を加えた実習記録を確認し返却する。

《参考図書》

文部科学省 (2018) 『幼稚園教育要領』、文部科学省 (2017) 『学習指導要領』

《備考》

・実習
 ・実習前後の学内での授業では、グループワークを行い実習を交流することで、学びを共有する。
加えて、小学校校長経験のキャリア実習者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	教師は、子どもたちをよく観察し、意味を持って指示や促し・評価等、状況や場面により、様々な働きかけることを
○ 1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	教師のことばかけ、子どもへのかかわり方などを直接見聞きすることで、愛情をもって子どもに接する大切さを理解
○ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	学校が運営されるには、学級担任だけでなく、養護、音楽などの専科や事務、用務などの様々な立場の人が責任を

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	30
授業内課題	20
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	実習の目的	ふれあい体験活動の意義と目的を確認する。	意義と目的、実習への抱負をま	45
2	実習の内容・流れ	ふれあい体験活動の内容や全体の流れを知り心構えを確認する。	内容や流れを確認し、考察す	45
3	子どもとのふれあい 1	子どもとのふれあい方についてグループワークの形式で検討する。	遊びを中心にふれあいについて	120
4	子どもとのふれあい 2	子どもとのふれあい方や現地での挨拶をプレゼンテーションする。	観察の視点を確認する。	45
5	ふれあい体験活動 1	幼稚園・小学校において、主として、遊びを通して子どもたちの言動、友だち関係などを観察する。	実習への心構えを確認する。	45
6	ふれあい体験活動 2	幼稚園・小学校において、主として、遊びを通して子どもの友だち関係などを観察する。	実習記録記載	60
7	ふれあい体験活動 3	幼稚園・小学校において、主として朝の会や終わりの会、給食などの学校生活の流れを観察する。	実習記録記載	60
8	ふれあい体験活動 4	幼稚園・小学校において、主として特別活動の時間や特別の教科道徳の時間の学習の流れを観察する。	実習記録記載	60
9	ふれあい体験活動 5	幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、指導者（教師）の発問や板書を観察する。	実習記録記載	60
10	ふれあい体験活動 6	幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、指導者（教師）の個々への配慮等を観察する。	実習記録記載	60
11	ふれあい体験活動 7	幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、発問、指示を受けた子どもたちの反応を観察する。	実習記録記載	60
12	ふれあい体験活動 8	幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、発問、指示を受けた子どもたちの様子を記録する。	実習記録記載	60
13	ふれあい体験活動 9	幼稚園・小学校において、自分なりの視点を決めて観察を深める。	実習記録記載	60
14	ふれあい体験活動 10	幼稚園・小学校において、視点を変えて観察したことを記録し、多角的な視点について考察する。	実習記録記載	60
15	実習の振り返り	実習記録をもとにふれあい体験活動を振り返る。	自分にとってのふれあい体験活	60

《専門教育科目》

科目名	音楽 I			科目ナンバリング	T02S21021
担当者氏名	井上 朋子, 立本 十寿子, 津田 安紀子, 中條 裕子, 前北 恵美, 佐藤 亜衣, 松岡 祐子			担当形態	共担
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 1 年 ・ I 期

《授業の概要》

本授業では、個人レッスンと集団授業を組み合わせながら、幼児教育及び小学校教育の現場で必要となる音楽の基礎的な知識と技能を身に付けます。個人レッスンでは、個々のレベルに合った楽曲に取り組み、ピアノと弾き歌いの技能の修得を目指します。また、集団授業では、読譜に必要な知識を身に付けるとともに、独唱や合唱などの演習を通じて歌唱表現に関する知識と技能を修得します。

《テキスト》

『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社
①～③のいずれかを使用。初回授業時に指示します。
①『改訂 ポケットいっぱいのおうた 実践 子どものうた 簡単に』

《参考図書》

『ブルグミュラー25の練習曲』全音楽譜出版社
『ソナチネアルバム1』全音楽譜出版社

《授業外学習》

・音楽実技の向上には日々の練習が欠かせません。課題を確実に練習した上で、授業に臨みましょう。

《学習状況・理解度の確認》

・課題一覧表に基づいて、各自のレベルに応じた楽曲に取り組みます。毎回のレッスンの中で、アドバイスを伝えるとともに、成果発表後には、全体講評と個別の講評を行います。

《備考》

・ML教室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること
・ICT活用双方向型授業

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	読譜に必要な知識を身につけるとともに、保育・教育現場で必要となる基礎的なピアノ技能及び歌唱技能を身につける
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	表現豊かなピアノ演奏や歌唱表現ができるよう、自分なりに工夫することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	25
レポート	0
発表・実技	65
授業内課題	10
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】楽典の理解度の確認	ピアノの練習と楽典の復習	120
2	個人レッスンと楽典の理解①	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】譜表と音名	ピアノの練習と楽典の復習	120
3	個人レッスンと楽典の理解②	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】音符と休符	ピアノの練習と楽典の復習	120
4	個人レッスンと楽典の理解③	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】拍子とリズム	ピアノの練習と楽典の復習	120
5	個人レッスンと楽典の理解④	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】音程	ピアノの練習と楽典の復習	120
6	個人レッスンと楽典の理解⑤	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】長調と短調	ピアノの練習と楽典の復習	120
7	個人レッスンと楽典の理解⑥	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】反復記号、強弱記号	ピアノの練習と楽典の復習	120
8	個人レッスンと楽典の理解⑦	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】その他の音楽記号、音楽用語	ピアノの練習と楽典の復習	120
9	個人レッスンと楽典の理解⑧	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】楽典のテスト	ピアノの練習と楽典の復習	120
10	個人レッスンと歌①	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】声の出し方	ピアノと歌の練習	120
11	個人レッスンと歌②	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】歌の表現方法について①	ピアノと歌の練習	120
12	個人レッスンと歌③	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】歌の表現方法について②	ピアノと歌の練習	120
13	個人レッスンと歌④	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】合唱と指揮法①	ピアノと歌の練習	120
14	個人レッスンと歌⑤	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】合唱と指揮法②	ピアノと歌の練習	120
15	成果発表	ピアノ、弾き歌いの成果発表	ピアノと歌の練習	120

《専門教育科目》

科目名	学校教育におけるICT活用			科目ナンバリング	T03S11073
担当者氏名	森下 博			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期 1年・Ⅱ期

《授業の概要》

学校教育においてGIGAスクール構想が進み、児童生徒1人1台のPCやタブレット端末を用いた教育環境が整ってきました。ICT環境の充実とともに、校務および授業の教材開発に関わる上でのICTスキルの向上が求められます。学校教育のあらゆる場を想定しながら、各種アプリケーションソフトを用いたICT活用により、知識と技術を身につけます。各教科の指導においても効果的なICT活用ができることを目指し、深い学びにつながる可能性を探ります。

《テキスト》

授業では、eラーニングサーバを活用し、作成した資料を提示します。さまざまなメディアによるコンテンツにもふれてもらいます。

《参考図書》

高橋参吉編著、高橋朋子・下倉雅行・小野淳・田中規久雄著、2021、『教職・情報機器の操作 -ICTを活用した教材開発・授業設計-』コロナ社

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	ワープロソフトの機能や役割を理解し、校務や授業教材などの文書作成が行える。
		表計算ソフトの機能や役割を理解し、正確で効率的な集計処理が行える。
		プレゼンソフトの機能や役割を理解し、視覚的に見せる教材資料の開発が行える。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	遠隔授業のための環境を整えて、授業の設計ならびにその実践が行える。
		探究学習における課題解決のアプローチの方法を身につけ、適切なICT活用ができる。

《授業外学習》

eラーニングサーバを活用しますので、いつでもどこでも端末からアクセスして配布資料の取得や課題の提出などが可能です。学んだ内容については、理解を深めながら確実に身につくよう授業外でもしっかり復習して下さい。正解が一つしかないような課題ではなく、多様なものの考え方とその表現をテーマとした課題に取り組みます。スキルを活かした処理と思通りの表現ができるよう、自主的な学習の取り組みに期待します。

《学習状況・理解度の確認》

その日の学習内容の進捗状況と理解度を把握するための提出をおこなってもらいます。フィードバックの内容を次に活かして下さい。分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

ICTの特徴や方法を理解した上で、適切なICTの活用ができるように努めてもらいたと思います。スキルの向上とともに効果的な教材開発につなげられるとよいです。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	30
授業内課題	30
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業概要と展開方法	授業の概要や展開の方法を説明する。学校教育における具体的なICT活用の事例について紹介する。	授業展開の把握	60
2	文書作成のためのICT活用	文書作成のためのワープロソフト活用の基礎を身につける。文書完成までのICTリテラシーについて学ぶ。	ワープロソフト	90
3	校務文書の作成と編集	校務文書作成の演習を通じてその書式や型を理解する。そのための正しい編集や美しい装飾の仕方について学ぶ。	校務の文書作成	90
4	教材資料の作成と表現	教材資料作成の演習を通じて効果的な伝え方を理解する。そのための表や図を含む視覚的な表現について学ぶ。	教材の文書作成	90
5	集計処理のためのICT活用	集計処理のための表計算ソフトの活用の基礎を身につける。シート上で正しいデータの入力と整理の仕方について学ぶ。	表計算ソフト	90
6	データの処理と視覚化	集計処理シート制作の演習を通じて表の効率的な計算方法を理解する。各種グラフの特徴に基づく視覚化について学ぶ。	シートの作成	90
7	アプリ間連携と効率化	報告文書制作の演習を通じて表計算ソフトとワープロソフトとの連携を理解する。これによる処理の効率化について学ぶ。	アプリ間連携	90
8	教材開発のためのICT活用	教材開発のためのプレゼンソフトの活用の基礎を身につける。スライドに取り込む各種メディアとコンテンツについて学ぶ。	プレゼンソフト	90
9	視覚的なスライド制作	教材スライド開発の演習を通じてスライドの見せ方を理解する。効果的なアニメーションの設定や使い方について学ぶ。	視覚的な効果	90
10	動画による教材の開発	動画教材の開発の演習を通じて音声を含む動画の制作過程を理解する。動画を用いた学習効果について学ぶ。	動画の教材作成	90
11	遠隔授業のためのICT活用	遠隔授業のための双方向通信ツールの活用の基礎を身につける。音声と映像のスムーズなやりとりの仕方について学ぶ。	遠隔授業の環境	90
12	オンライン授業の設計	遠隔授業で使用できるメディアコンテンツを理解する。オンライン授業のための設計について学ぶ。	各種メディア	90
13	オンライン授業の実践	遠隔授業の実践を通じて効果的な機能を理解する。オンラインにおけるチャットの活用やグループ学習の展開について学ぶ。	協働学習	90
14	探究学習のためのICT活用	探究学習における課題解決のアプローチの方法を身につける。プログラミング的思考と適切なICT活用の方法について学ぶ。	探究的な学習	90
15	授業総括と振り返り	学校教育におけるICT活用を振り返る。ICTを活用できる場面を想定した各教科への適用について考える。	授業の振り返り	60

《専門教育科目》

科目名	教育・保育の課程と評価			科目ナンバリング	T02L22026
担当者氏名	澤田 真弓			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					2 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育・保育課程の意義と役割、カリキュラム・マネジメントの意義について学習する。カリキュラムの実践的な編成能力を養うため、各種指導計画等を検討する。

《授業外学習》

テキストの該当箇所および事前配布資料は熟読しておくこと。授業内容を丹念に振り返り、整理しておくこと

《テキスト》

岩崎淳子他『教育課程・保育の計画と評価』萌文書林

《学習状況・理解度の確認》

提出物にはコメントを付して返却する。分からないことは随時質問を受け付ける。

《参考図書》

随時紹介する

《備考》

担当者は保育士、幼稚園教諭として保育園、幼稚園勤務歴のある実務経験者。グループワークを行う。

Theory of Curriculum and Evaluation in Child Care and

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を	保育・幼児教育におけるカリキュラムの意義と役割が理解できる
○ 3-2 自らの教育・保育実践を省察する力	教育・保育課程編成の原理と方法を理解できる
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	年齢や集団に応じた指導計画が作成できる
○ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	各園や施設の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義が理解できる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	80
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	カリキュラムの基礎理論	教育活動におけるカリキュラムの意義と役割について学ぶ。	授業内容の振り返り	45
2	幼稚園教育要領、こども園教育・保育要領について	幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の特徴について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45
3	保育所保育指針、こども園教育・保育要領について	保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の特徴について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45
4	教育課程・保育課程の意義と役割	教育課程・保育課程が持つ意味とその役割について学ぶ。それぞれの編成方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45
5	指導計画の意義	指導計画が持つ意味について学ぶ。各種指導計画の編成方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45
6	指導計画の種類と役割	長期指導計画、短期指導計画の特徴と実践上の留意点について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45
7	保育形態と保育方法	様々な保育形態について解説し、それぞれの特徴をいかした保育方法について紹介する。	テキスト、授業内容の振り返り	45
8	保育の評価	保育評価の視点、評価の実践的な実施方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45
9	保育の記録	保育記録の意義と役割、作成方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45
10	長期指導計画の作成	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	90
11	作成した長期指導計画の具体的検討	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。	配布資料、授業内容の振り返り	90
12	短期指導計画の作成	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	90
13	作成した短期指導計画の具体的検討	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。	配布資料、授業内容の振り返り	90
14	カリキュラム・マネジメントの意義	カリキュラム・マネジメントが持つ意味、実際にカリキュラム・マネジメントを実施する際の留意点について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45
15	カリキュラム・マネジメントと保育カンファレンス	PDCAサイクルをいかした実践の省察や、研修、研究保育等の保育力向上のための取り組みについて学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45

《専門教育科目》

科目名	教育におけるICT活用の理論と方法			科目ナンバリング	T04L22097
担当者氏名	河野 稔			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年・I期

《授業の概要》

児童生徒1人1台端末による学習環境が整備され、ICT（情報通信技術）による個別最適な学びと協働的な学びが実現できるようになった。この科目は、主体的・対話的な深い学びの実現のためのICT活用指導力の養成を目指し、ICTを活用した学習活動の意義を理解し、学習場面に応じたICTを活用した授業の設計と準備、児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法、教師や学校を支援するツールとしてのICTの活用について学ぶ。また、各教科等のデジタル教材を作成する演習にも取り組む。

《テキスト》

稲垣忠・佐藤和紀編著（2021）『ICT活用の理論と実践』北大路書房
文部科学省（2020）『教育の情報化に関する手引き-追補版-』

《参考図書》

稲垣忠編著（2022）『教育の方法と技術 Ver.2（改訂版）』北大路書房、文部科学省『教育の情報化の推進』、文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 総則編』等

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	情報社会の進展に伴うICTを活用した教育の意義と教育データを活用した個別最適な学び等の将来像を説明できる。 学校のICT環境の整備に伴う、校務の情報化や外部人材などの活用、情報セキュリティ対策のあり方を説明できる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を	オンライン教育を含めた学習場面に応じて、ICTを効果的に活用した授業を計画し、デジタル教材を作成できる。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	各教科等の特性に応じて、児童生徒がICTを活用して個別あるいは協働的に学ぶための基本的な指導法を説明できる。

《授業外学習》

予習では、毎回の授業までに、テキストの該当箇所、あるいは、LMS（学習支援システム）で公開されるプリントを事前に通読すること。復習では、毎回の授業のテーマに沿った課題に取り組むこと。デジタル教材の教材企画書の作成、教材の作成とその発表は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループのメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくにデジタル教材の作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	30
授業内課題	40
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	教育の情報化とGIGAスクール構想の現状を確認し、現代社会におけるICTの役割、ICTを活用した教育の意義を概観する。	テキスト第1章を通読	45
2	教育における視聴覚メディアとコンピュータ活用の展開	視聴覚メディアとコンピュータの学校教育での歴史的展開を理解し、学校でのメディアと技術の活用を議論する。	テキスト第2～3章、第7章を通読	60
3	教師のICT活用指導力とデジタルコンテンツの活用	デジタル教科書等のデジタルコンテンツの特性と活用のあり方を踏まえ、教師に求められるICT活用指導力を理解する。	テキスト第5章、第8～9章を通読	90
4	対話的な学びと個別最適な学びを支えるICT	ICTを活用した協働学習の特性や個別最適化された学びの意義を理解し、先端技術を含めた活用のあり方を議論する。	テキスト第4章、第10～11章を通読	60
5	特別支援教育と幼児教育におけるICT活用	特別支援教育と幼児教育でのICT活用の意義と現状を確認し、実践事例から活用するための留意点を理解する。	テキスト第6章、第13章を通読	60
6	遠隔授業・オンライン学習と学びの保障	遠隔授業やオンライン学習の特性と活用方法および著作権等の留意点を理解し、ICTによる学びの保障について議論する。	テキスト第12章を通読	60
7	校務の情報化と教育データの活用	校務支援システム等による校務の情報化を理解し、教育データの種類や活用、情報セキュリティ等の課題を確認する。	テキスト第14章を通読	60
8	児童生徒によるICT活用	児童生徒によるICT活用の意義と各教科における学習場面を確認し、日常的にICTを活用するための留意点を理解する。	テキスト第15～16章を通読	60
9	情報活用能力と情報モラル教育	情報活用能力における情報モラル教育の位置づけを確認し、実践事例をもとに授業づくりの考え方を議論する。	テキスト第18章を通読	60
10	プログラミング教育で育成する資質・能力	プログラミング教育のねらいや位置づけを理解して、具体的な授業方法や授業をする際の留意点を理解する。	テキスト第17章を通読	90
11	探求を支える情報活用能力	探求の基盤となる資質・能力と情報活用能力の関係を確認し、学校図書館の活用等の実践事例から指導法を理解する。	テキスト第19～20章を通読	90
12	デジタル教材の作成と活用(1)教材の企画検討	ICTを活用した教材作成として、グループで作成するデジタル教材を設計して、指導内容を企画書としてまとめる。	教材企画書の作成	120
13	デジタル教材の作成と活用(2)教材の作成	実際にICT機器を使用して、グループで設計したデジタル教材を作成する。	デジタル教材の作成	120
14	デジタル教材の作成と活用(3)教材の発表と相互評価	グループで作成したデジタル教材を発表し、共有をして相互評価をして、改善点を検討する。	デジタル教材の作成と発表準備	120
15	全体のまとめとICT活用指導力の向上	教師のICT活用指導力に求められる資質・能力をまとめ、ICT活用指導力の向上とその留意点について考察する。	ICT活用指導力チェックリストの確認	45

《専門教育科目》

科目名	教育の思想と原理	科目ナンバリング	T04L11082
担当者氏名	安喰 勇平	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育は世代間の相互作用、学校・家庭・地域社会の間の相互作用として営まれている。その歴史はイニシエーションとしての教育から、学校教育制度の成立を経て、生涯学習の時代に至っている。このような歴史的変遷の中で、教育は何のために営まれ、学校は何のために存在してきたのか。本授業では、教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な背景を学びつつ、現代の教育課題に主体的に取り組むための姿勢を身につけることが期待される。

《テキスト》

資料を配付する。

《授業外学習》

- ・授業前に配布資料を読み、学習の手引きに沿って自学自習する。
- ・授業後、紹介された文献や参考図書を読み、理解を深める。

《学習状況・理解度の確認》

授業中に課題作文に取り組み、知識の定着を図る。課題作文に対するコメントから自分の理解度を確認し、次の学習への動機づけを得る。

《参考図書》

小笠原道雄編『教育の哲学』放送大学教育振興会、2003年。越後哲治・田中亨胤・中島千恵編『保育・教育を考える－保育者論から教育論へ－』あいり出版、2011年。その他、授業で適宜紹介する。

《備考》

- ・グループワークやディスカッションを行う。
- ・意欲的に授業に参加することを期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な文脈を説明することができる。
	現代の教育課題に主体的に取り組むことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	0
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育をめぐる現代的課題	一般的な教育言説を確認しながら、教育を根本的に問うための方法を学ぶ。	資料に基づく学習と作文	90
2	学校をめぐる現代的課題	学校をめぐる問題が山積している点を確認しながら、学校の存在意義を問うための方法を学ぶ。	資料に基づく学習と作文	90
3	教育の語義	すでに経験している日常の教育を振り返りつつ、教育の語義を確認する。	資料に基づく学習と作文	90
4	教育の目的・目標	教育基本法に定められた教育目的、教育目標を確認しながら、その具体的な内容を事例に即して検討する。	資料に基づく学習と作文	90
5	人間性とは何かという問いの歴史的・社会的文脈	人間性とは何かという問いの歴史的・社会的な意味を、古代ギリシア・ローマの時代にさかのぼって検討する。	資料に基づく学習と作文	90
6	学校の起源	文字によって体系化・集約化された知識を教授・学習する場として、学校が成立した点を確認する。	資料に基づく学習と作文	90
7	大学の成立と庶民のための学校の誕生	12世紀のヨーロッパで大学が成立し、16世紀のルターが庶民のための学校を構想した歴史的経緯を学ぶ。	資料に基づく学習と作文	90
8	人間の教育必要性の意味	社会から隔離されて育ち、教育の機会を奪われた野生児の事例から、人間の教育必要性の意味を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
9	子どもへの教育的まなざしの成立	ルソーの教育思想やアリエスの歴史研究から、子どもに注がれる教育的まなざしの意味を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
10	家庭教育の意味	家庭教育の歴史的・社会的な意味を確認しながら、現代における家族や家庭生活の問題を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
11	近代公教育の理念と制度	学校が公の性質を持つようになった歴史的経緯を跡づけながら、啓蒙主義と学校教育制度の問題を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
12	統一学校運動と新教育運動	19-20世紀転換期のヨーロッパで起こった統一学校運動と新教育運動の理念と実際を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
13	学校化社会の限界	学校教育を自明視する学校化社会、学歴を社会におけるステータスシンボルとみなす学歴社会の限界を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
14	生涯学習社会における学校の役割	教育は生涯にわたって継続するものであるという観点から、生涯学習社会における学校の役割を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
15	情報・消費社会における教育と学校	情報メディアによって人々の欲望が刺激され、消費が促される社会で、教育と学校には何ができるのかを展望する。	資料に基づく学習と作文	90

《専門教育科目》

科目名	教育社会学	科目ナンバリング	T04L22087
担当者氏名	吉原 恵子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育とは、人を望ましい方向へと変化させる営みである。一面では、教育は教育を行う者と教育を受ける者の間に起こる社会的相互作用である。他方、特定の社会のなかで、教育は一定の価値観に基づき法律や制度を介して行われる。すなわち、教育は社会的産物であり、社会現象としてさまざまな問題を生み出すものでもある。本講義では、教育を社会学的に捉える視点を養い、教育現場の諸課題について考察していく。

《テキスト》

『教育社会学（新しい教職教育講座 教職教育編③）』原清治・山内乾史 編著（ミネルヴァ書房）

《参考図書》

『教育の社会学 ～常識の問い方 直し方～ 新版』荻谷剛彦 他著（有斐閣）、『よくわかる教育社会学』酒井朗 他編著（ミネルヴァ書房）

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	現代の教育問題に関心を持ち、現状のみならず、その背景や原因について情報・知識をもとに説明できる。
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	教育問題について批判的に捉えるだけでなく、データ等を用いて多面的に分析し、解決に向けた考えをまとめて発表できる。

《授業外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を示したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) レジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これらについて、授業後に復習して説明できるようにしてください。
- (4) 日頃より、教育問題について関心を持って考える習慣をつけてください。

《学習状況・理解度の確認》

- ・課題やレポートは、全体的講評し、個別にコメントを付して返却する。
- ・学修の到達度について、学生が確認できるよう適時、得点率等を示す。

《備考》

とくにグループワーク、プレゼンテーションでは、主体的・協働的な取り組み態度が求められる。教職に就く者としての自覚をもって学ぶことを期待する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	45
小テスト	20
レポート	10
発表・実技	10
授業内課題	15
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育社会学の視点	教育社会学の視点について理解する。教育社会学の成立の背景、社会移動、学歴社会などを中心として教育や学校の社会的機能を説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
2	学歴社会と学力(1)	学歴社会の基本構造、身分制社会から学歴社会への転換、日本社会のエリートなどについて説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
3	学歴社会と学力(2)	学歴社会は業績社会なのかについて考察し考えをまとめることができる。	該当章を読む／専門用語理解	60
4	学校で起こる問題	いじめや不登校など学校やその周辺で起こる問題について、現状と背景・原因について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
5	子どもをめぐる問題	子ども期や青年期の誕生について理解し、電子メディアと子どもの関わりや育児メディアなどについて問題点を説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
6	子どもの貧困と教育支援	日本における子どもの貧困の実態を理解し、子どもの貧困対策と教育支援、学校の役割について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
7	非行と逸脱	少年非行の現状を理解し、少年非行に対する社会学的アプローチ、社会の変化と教育問題の心理主義化・医療化について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
8	子どもの社会学（討議）	学校や子どもをめぐる問題について社会学的に理解し、問題の分析を行うとともに、解決策や今後の展望について議論し結論を発表できる。	テーマに関する資料収集とまと	60
9	教師をめぐる問題	教師の役割について社会学的にアプローチするとともに、教職の多忙化・バーンアウト、変わる教員養成の現状について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
10	学校における他職種協働	生徒指導に関わる職種の多様化、多職種の配置による教員の役割の変化について理解し、学校における多職種協働について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
11	地域社会と教育	地域社会が果たす教育上の役割とその変容について、子どもと地域の大人のつながり、地域で支える学校づくりを中心として説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
12	ジェンダーと教育	教育分野におけるジェンダー・ギャップについて理解し、隠れたカリキュラムやジェンダーの多様性を考える視点について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
13	リスク社会における教育格差	リスク社会と教育をめぐる格差問題について理解し、日本社会における教育費負担、子どもの貧困問題と学力保障について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
14	教育と多様性（討議）	変化する教育の現状について理解するとともに、多様性をめぐる諸課題について解決策や今後の展望について議論し結論を発表できる。	テーマに関する資料収集とまと	60
15	知識基盤社会と教育改革	知識基盤社会と生涯学習社会について理解し、キーコンピテンシーや社会関係資本と教育改革について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	T04L11086
担当者氏名	古田 薫	担当形態	
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。

《テキスト》

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』（古田薫、山下晃一編著 ミネルヴァ書房）
必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

『解説教育六法』三省堂
『図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』坂田 仰他、教育開発研究所

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	教育行政の仕組みや学校制度、学校運営、地域連携について理解している。
○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教育法規の基本と、教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《授業外学習》

- ・授業の前までに教科書の当該箇所目を通しておく。
- ・授業の要点をまとめたノートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

授業の終わりに提出するリアクションペーパーで理解度を把握し、補足や質問に対する回答を行う。
小テーマごとにミニテストを実施する。

《備考》

- ・必要に応じてグループ学習やディスカッションを実施する。
- ・配布資料は順番に整理し、ファイルに保存しておくこと。
- ・授業でわからなかった点は調べたり、次回の授業時に質問すること。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（まとめノート提出）	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育行政と教育制度の基礎知識	・教育制度を学ぶ意義を理解する。 ・教育行政、教育制度の基本概念を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。	テキスト予習 まとめノートの	45
3	憲法教育基本法制①教育に関する規定	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。 ・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
4	憲法教育基本法制②教育基本法	・教育基本法の意義と内容を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
5	学校教育の基本	・学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
6	教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会	・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
7	教育行政のしくみ②教育委員会	・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。 ・教育委員会制度の概要と意義を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
8	教育を受ける権利の保障	・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。	テキスト予習 まとめノートの	45
9	学校の組織と運営①チーム学校	・学校運営の基本原則とチーム学校の意義を理解する。 ・学校評価について理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
10	学校の組織と運営②学校運営の管理	・学校運営におけるさまざまな管理を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
11	学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規	・学校と保護者・地域に関する法規と制度を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
12	教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領	・学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
13	学校運営と学校安全	・学校安全/学校保健の目的と必要性を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
14	児童生徒に関する法規	・就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
15	児童生徒をめぐる様々な問題	・学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等について理解する。	学校における諸問題についてレ	90

《専門教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	T04L22099
担当者氏名	新井 肇	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

この授業では、教育相談の原理とともに、カウンセリング、心理検査、心理療法等の学校心理学に関する理論と実践について理解を深め、教育相談の基礎的知識や基本姿勢を習得する。そのうえで、現代の教育現場の実情と心の問題について具体的、実践的に対応できるよう「いじめ」「非行」「心の病気」「自殺予防」などの事例をもとに解説し、また、グループ討論を通じて自ら積極的に指導・援助できる資質を身に付ける。さらに、保護者への支援、他の専門機関との連携のあり方等について

《テキスト》

コンパス教育相談 住本克彦編著 建帛社 なお、講義時に適宜プリント資料を配付する□

□

《参考図書》

文部科学省（編）『生徒指導提要』（2022）
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdfよりダウンロード□

□

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	学校における教育相談の必要性和意義について説明できる
	教育相談を支える心理学的理論およびアセスメント、カウンセリング技法について説明できる
	学校現場における様々な問題に対して、その問題の重要性を理解した上で、具体的な対応を考え出すことができる

《授業外学習》

テキストを、授業前学習として自己の小・中・高校での体験と重ねながら読むとともに、授業後の振り返りとして、学習内容と関連付けながら読み込むことで、教育相談の理論や方法の基礎的な力量の定着を図る。また、教育に関する時事的な問題に関心を持ち、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等の情報を分析するとともに、文部科学省通知や国立教育政策研究所資料、各種審議会答申等の検討を通して、今日求められている教育相談の実践内容について主体的に考察する態度を養うことをめざす。なお、積極的に子どもと関わるボランティア体

《学習状況・理解度の確認》

授業内のロールプレイやグループワーク、事例検討等における発言・発表や、授業内小レポートの内容等から理解度を測る。加えて、そこからみえてきた課題について全体協議を行い、理解度の深まりを捉える

《備考》

講義だけでなく、課題に応じて、ロールプレイや事例研究、心理検査実習などの演習にも取り組むので、毎時間授業に出席し、積極的に学習に取り組んでほしい。また、自分の小・中・高等学校時代の経験を振り返り、授業中の教師の立場から考えてほしい。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	70
発表・実技	0
授業内課題	30
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	学校における教育相談の必要性和意義	学校における教育相談の必要性和意義について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める□	テキスト1章を読む	45
2	教育相談を支える心理学の理論	教育相談を支える心理学の理論について説明し、その理論的背景について理解を深める□	テキスト2章を読む	45
3	教育相談におけるアセスメント	教育相談におけるアセスメントの重要性について説明し、教育現場におけるアセスメントの活用について理解を深める□	テキスト4章を読む	45
4	教育相談に活かすカウンセリングの基本技法（1）	カウンセリングの基本技法について説明し、その演習をとおして、カウンセリングにおける基本的姿勢に対する理解を深める□	テキスト7章3節、10章3節を読む	45
5	教育相談に活かすカウンセリングの基本技法（2）	SSTやストレスマネジメントなどの開発的カウンセリングの理論と技法についての理解を深める	テキスト6章を読む□	45
6	幼児期・児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談	幼児期・児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談について説明し、その発達段階に応じた対応について理解を深める□	テキスト3章を読む	45
7	いじめ問題の理解と対応	いじめ問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める□	テキスト5章1節を読む	45
8	不登校問題の理解と対応	不登校問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める	テキスト5章2節を読む	45
9	虐待・非行問題の理解と対応	いじめ問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める	テキスト5章4節、7章2節を読む	45
10	特別な支援を必要とする子どもの理解と対応	虐待・非行問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める	テキスト9章を読む	45
11	保護者支援のあり方	保護者支援のあり方について説明し、保護者への対応について理解を深める	テキスト7章を読む	45
12	チーム学校で行う教育相談のあり方	チーム学校で行う教育相談のあり方について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める	テキスト8章を読む	45
13	専門機関との連携	専門機関との連携について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める	テキスト10章、12章を読む	45
14	教師のメンタルヘルス	教師のメンタルヘルスについて説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める	テキスト11章を読む	45
15	全体の総括	授業全体の総括を行い、試験に向けた内容の整理を行う	自己の経験を事例としてまとめ	60

《専門教育科目》

科目名	教育哲学	科目ナンバリング	T04L22084
担当者氏名	森 秀樹	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

この授業では、現代の教育で生じている様々な現象について教育哲学の観点から考察を行う。その過程で、教育の基本的概念、教育の歴史や思想について理解し、子ども・教師・家庭・学校・社会といった教育に不可欠な事柄の間の相互関係について考えを深めていく。そして、それらの考え方に基づいて現代の教育の色々な課題について考察を行い、教育を実践していくための出発点を準備する。

《テキスト》

伊藤潔志編著『哲学する教育原理』（教育情報出版）2019.

《参考図書》

伊藤潔志編著『哲学する教育原理』（教育情報出版）2019.

《授業外学習》

【予習】 前回は指示された課題について自分なりの考え方をまとめておく。

【復習】 授業の内容について整理するとともに、授業を通して自分が考えたことをまとめて、小レポートとして提出する。

《学習状況・理解度の確認》

《授業外学習》で指示した【予習】と【復習】の内容をまとめた小レポートを次回の授業までに提出してもらおう。優れたものは次回にコメントをつけて紹介する。

《備考》

第2回から第14回に関する小レポートの得点の総和に基づいて成績評価を行う。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3子どもと環境の関係を理解する力	子どもの学びが環境との相互作用の中で行われるということをもとに具体的な事例とともに説明できる。
○	1-1子どもの発達を理解する力	子どもの発達や成長を見取る観点を学び、それを様々な場面に適用し、自分なりの言葉で説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	100
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	現代の教育について教育哲学の観点から考察するという講義の目的を理解し、全体の構成と毎回の受講の仕方について理解する。	授業内容の整理と次回の予習	45
2	教育とは何か？	教育が社会や時代の状況に応じて様々な現れ方をすることを学習し、それらに共通している本質的な内容について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
3	学校とは何か？	学校教育が社会や時代の状況を反映したものであることを理解するとともに、現代において学校教育が担う役割について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
4	学ぶとはどのような出来事か？	発達や学習の過程を具体的に記述していく中で、人間は環境との相互作用の中で発達/学習するという構造の重要性について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
5	子どもとはどのような存在か？	子ども像の歴史的な変遷をその都度の社会の教育観との関係の中で振り返り、現代における子ども像と教育観について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
6	学級とは何か？	現在の学校教育の核となっている「学級」について記述を行い。その果たすべき役割と問題点について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
7	学力とは何か？	日常的に用いられる「学力」を人間の発達や社会的活動の観点から記述しなおし、それに基づいて学力観の変遷の意味について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
8	教えることと学ぶこと	教育思想の大きな流れを振り返りつつ、それを手がかりとして教えることと学ぶこととの関係について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
9	授業とは何か？	授業についての考え方の歴史を振り返ることで、授業の本質的な構成要素を理解し、現代において求められる授業のあり方について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
10	道徳をなぜ学ぶのか？	道徳とは何かについて考察することによって、その本質を理解するとともに、道徳教育のあり方について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
11	グローバル化時代の教育	グローバル化において発生している様々な問題について分析を行い、そのような社会における教育のあり方とその課題について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
12	異文化理解教育	国際化の進展の中で生じる文化間の軋轢の本質を記述することで、異文化を理解し、他者と共存するための教育について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
13	ケアの教育	ケアについての思想を振り返ることで、子どもが不安なく成長できる環境を整えるためにケアという考え方が不可欠となることを学ぶ。	授業内容の整理と次回の予習	60
14	哲学対話	「主体的で対話的な深い学び」を実践するための一つの方法として「哲学対話」がある。その基本的なあり方を体験する。	授業内容の整理と次回の予習	60
15	リフレクション	講義全体を振り返り、相互の関連を確認するとともに、各自の理解と考えを全体で共有する。	授業全体のふりかえり	45

《専門教育科目》

科目名	教育方法・技術論			科目ナンバリング	T04L21096
担当者氏名	河野 稔, 勝見 健史			担当形態	複担
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 1 年 ・ II 期

《授業の概要》

これからの社会を生きる子どもたちを育成するために、どのような授業をすれば上手く教えられるのか、どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのかを学習する。インストラクショナルデザインの考え方に基づいて、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶとともに、学習指導案を実際に作成し、受講生間で評価することで、授業設計の一連のプロセスを学ぶ。

《テキスト》

稲垣忠編著(2022)『教育の方法と技術 Ver. 2』北大路書房

《参考図書》

勝見健史(2023)『国語科 主体的学習における教師の「指導」』文溪堂、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』、文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』等

《授業外学習》

予習では、事前にテキストの授業範囲を読み、指定された事前課題に取り組むこと。復習では、指定された事後課題に取り組むとともに、授業で取り上げたテキストの各章末の章末問題に取り組むこと。第5回の授業企画書の作成、第15回までの授業パッケージの作成は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループ（制作チーム）のメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくに授業パッケージの作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	子どもに育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を	学習指導案の基本的な要素と作成のながれを理解し、実際に設計できる。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習者を支援する基本的な指導技術を身につけ、活用することができる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	ICT機器・教材の活用法を理解し、授業設計の際に適切に位置づけることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	20
授業内課題	30
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教師という仕事における教育の「方法」と「技術」	本講義全体のガイダンス。教師という仕事における「方法」「技術」の意味と意義を理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	45
2	教育方法の前提となる教師の「みる」力 (1)	教師の「教える」専門性を支える、教師の子どもを「みる」力の前提性・重要性について理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	45
3	教育方法の前提となる教師の「みる」力 (2)	演習を通して、子どもを指導するにあたって具体的事実の意味を捉えることの意義について考察する。	配布資料・参考図書で内容確認	45
4	将来を生きる子どもたちに必要な「学力」とは	今、育てるべき「学力」の内容と構造、そのために必要な教師の「指導」の内容について理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	90
5	学力育成の教育方法としての「指導と評価の一体化」	具体的な「方法」「技術」の存在に着目し、学力育成と「指導と評価」の関係性について理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	60
6	授業づくりとそのプロセス、学習評価のデザイン	授業づくりのプロセス、学習目標と評価を理解する。授業パッケージのチームをつくり、テーマと学習目標・評価を考える。	テキストの第3章と第4章を通読	90
7	学習環境のデザインとデジタル化、授業企画書の発表	学習環境を構成する要素や資源を理解する。授業パッケージで想定するテーマを実施する上で必要な環境を検討する。	テキストの第5章を通読	90
8	授業を支える指導技術と学びを引き出す指導技術	ICT活用を含め、教師として学習者中心の学びのための指導技術を理解する。授業パッケージでの学び方を紹介する。	テキストの第6章と第7章を通読	90
9	学習指導案をつくる (1) 学習目標の設定	学習指導案の構成要素および学習目標の明確化について理解する。授業パッケージのテーマについて学習目標を定義する。	テキストの第8章を通読	60
10	学習指導案をつくる (2) 深い学びを導く教材研究	教科書等の役割、教材研究としての課題分析を理解する。授業パッケージの学習目標について課題分析図を作成する。	テキストの第9章を通読	90
11	学習指導案をつくる (3) 主体的・対話的な学習過程	協働学習や自己調整学習を理解し、探求型のアプローチを確認する。授業パッケージのテーマについて学習過程を作成する。	テキストの第10章を通読	90
12	学習指導案をつくる (4) 学びが見える評価方法	ルーブリック等の学習の質を見極めるための評価方法を理解する。授業パッケージのテーマについて評価計画を作成する。	テキストの第11章を通読	60
13	ICT・デジタル教材の活用、情報活用能力の育成	ICTの活用や情報活用能力を育成する学習場面を確認する。授業パッケージでのICT活用と意識する情報活用能力を検討する。	テキストの第12章と第13章を通読	90
14	これからの学習環境とテクノロジーの役割	テクノロジーによる新しい学びの姿を整理する。ICT環境における学校と教師の役割を検討する。授業パッケージをまとめる。	テキストの第14章を通読	90
15	模擬授業の実施と授業の改善、授業のまとめ	授業内容をふりかえるとともに、授業パッケージを仕上げて模擬授業を実践する。	テキストの第15章を通読	90

《専門教育科目》

科目名	個別教育計画概論	科目ナンバリング	T03L22065
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

令和の日本型学校教育の在り方として提唱された「個別最適化された学び」について、その理念と実践について考えるとともに、「個別最適化された学び」の実現に必要な「指導の個別化」と「学びの個性化」を実践レベルに落とし込む手立てとしての個別教育計画（IEP）の作成について考察する。

《授業外学習》

授業時間中に指示された課題に取り組むために、資料の収集やレポートの作成に取り組むことが求められる。

《テキスト》

奈須正裕・伏木久治（編著） 2023 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して 北大路書房

《学習状況・理解度の確認》

提出を課せられた授業内課題等を通して、理解度を把握する。質問等にはオフィスアワーに対応する。

《参考図書》

市川奈緒子・仲本美央 2022 保育ナビブック 子ども一人ひとりがかがやく個別指導計画～保育現場の実践事例から読み解く～ フレーベル館
加藤美希 2022 個別最適な学び 協働的な学びの考えと実践

《備考》

Introduction to Individualized Education Plan ディスカッションやグループワークを交えて授業を行う。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	個別最適化された学びについて理解を深める
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	個別教育計画について理解を深める
○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	学習者の個性を的確に捉えて、個別教育計画に反映させることができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	50
その他（授業への積極的参加度）	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	導入	学校教育をめぐる諸問題について考察する。	資料収集とレポート作成 授	120
2	小学校学習指導要領	個を重視した教育について、小学校学習指導要領に基づいて考察する。	資料収集とレポート作成 授	120
3	幼稚園教育要領	個を重視した教育について、幼稚園教育要領に基づいて考察する。	資料収集とレポート作成 授	120
4	令和の日本型学校教育	「中央教育審議会答申」等を精読し、個別最適化された学びについて理解を深める。	資料収集とレポート作成 授	120
5	令和の日本型学校教育	「中央教育審議会答申」等を精読し、個別最適化された学びについて理解を深める。	資料収集とレポート作成 授	120
6	令和の日本型学校教育	「中央教育審議会答申」等を精読し、個別最適化された学びについて理解を深める。	資料収集とレポート作成 授	120
7	指導の個別化	「適性処遇交互作用」や「プログラム学習」など、指導の個別化に関わる教育について振り返る。	資料収集とレポート作成 授	120
8	個別最適化された学びの実践	自由進度学習の取り組みについて探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
9	個別最適化された学びの実践	奈良の学習法の実践について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
10	個別最適化された学びの実践	特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する教育について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
11	保育における個別保育計画	3歳未満の子どもを対象とした個別の指導計画の作成について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
12	保育における個別保育計画	3歳未満の子どもを対象とした個別の指導計画の作成について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
13	特別支援教育における個別教育計画	特別支援教育における個別教育支援計画と個別指導計画について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
14	特別支援教育における個別教育計画	特別支援教育における個別教育支援計画と個別指導計画について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
15	個別教育計画（IEP）に関わる海外での取り組み	個別教育計画（IEP）に関するアメリカ合衆国とフィンランドでの取り組みについて探究する。	資料収集とレポート作成 授	120

《専門教育科目》

科目名	子育て支援地域活動 I	科目ナンバリング	T03S22071
担当者氏名	澤田 真弓	担当形態	共担
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

地域子育て支援活動での実践を中心に経験を深め、実践的知識や技術につながる素地を培うことを目的とします。授業では、子育て支援の理念や制度、歴史的経緯、子育て支援の現状を学び、子育て支援活動での実践と併せて、地域や保護者のニーズに応じた子育て支援のあり方を理解します。

《授業外学習》

・子育て支援に関する社会的現状を、様々な情報を元に理解しておくこと。
 ・子育て支援活動に参加する際には、子育て支援に関わる者としての自覚や使命感をもって臨むこと。

《テキスト》

適宜、資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・授業や子育て支援活動の参加後に提出された小レポートは、コメントを添えて返却し、学びの状況を確認する。
 ・グループ単位での活動を主とするため、メンバーとの協働的な取り組みを評価する。

《参考図書》

《備考》
 ・担当者は、保育士・幼稚園教諭として勤務歴のある実務経験者である。
 ・PBL、グループワーク、実習を行う。
 Parenting Support (Practice)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	地域子育て支援活動の観察や環境構成などの実践を通して、子育て支援の実践力を身に付ける。
○ 1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	地域子育て支援の実践力の基礎となる様々な課題や地域の子育て支援拠点の取り組みについて理解する。
○ 1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	個々の保護者への個別対応を経験し、保護者のニーズを踏まえた子育て支援について理解する。
○ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	グループを組んで子育てに関する地域課題の発見に取り組む。
○ 3-2 自らの教育・保育実践を省察する力	子育て支援活動での実践を振り返り、各自の課題を見出す。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	40
授業内課題	30
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子育て支援が求められる社会的背景	子育て支援が求められるようになった社会的背景や子育ての歴史について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45
2	子育て支援に関する制度・施策の展開	日本の子育て支援制度の変遷と現状について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45
3	保育者の専門性と子育て支援	子育て支援における子どもの最善の利益と保育者の倫理について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45
4	子育て支援活動への参加と学び	子育て支援活動への参加の仕方について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45
5	実践演習①	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	実践演習の振り返り	45
6	実践演習②	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	実践演習の振り返り	45
7	実践演習③	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	実践演習の振り返り	45
8	実践演習の振り返り①	子育て支援活動に参加して得た学びを整理、検証する。	活動の振り返りと次回の準備	45
9	実践演習の振り返り②	子育て支援活動に参加して得た学びを整理、検証する。	活動の振り返りと次回の準備	45
10	実践演習④	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	活動の振り返り	45
11	実践演習⑤	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	実践演習の振り返り	45
12	実践演習の振り返り③	子育て支援活動に参加して得た学びを整理、検証する。	実践演習の振り返り	45
13	子育て支援の環境構成	演習を通して、子育て支援における環境の意義について知る。	環境構成の計画	60
14	子育て支援の環境構成	演習を通して、子育て支援における環境の意義について知る。	実践演習の振り返り	60
15	まとめ	授業の振り返りを行う。	レポート作成	120

《専門教育科目》

科目名	総合表現教育 I			科目ナンバリング	T02S21023
担当者氏名	半田 結, 井上 朋子, 永井 夕起子			担当形態	共担
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 1 年 ・ II 期

《授業の概要》

子どもたちの豊かな感性を育むには、保育者や教師自身の感性や表現力が重要です。「総合表現教育 I」では、音楽・造形・身体表現の領域や科目の枠組みに捉われない、感覚的な表現や総合的な表現を体験的に学ぶ中で、まずは諸感覚をひらき、学生自身の感覚や感性に気付くことを目指します。また、他者に自分の思いを表現したり、他者と共に表現したりすることを通して、自らの感性をさらに磨くとともに、コミュニケーション力や表現力の向上につなげます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布する

《参考図書》

マリー・シューファー・今田匡彦『音さがしの本 リトル・サウンド・エデュケーション』
春秋社（1996年）

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	自分の感覚に気づくとともに、感じたことや思いを表現したり、伝えたりする力を身につけている。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	子どもの表現を理解し、受け止めることができる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	音楽・造形・身体表現に関する総合的な芸術表現を知り、多様な表現の可能性を探究することができる。

《授業外学習》

○日ごろから、身の回りの事象に対して五感を働かせて感じ取るように心がけましょう。
○芸術作品にも興味を持ち、自発的に鑑賞する機会をもちましょう。

《学習状況・理解度の確認》

授業毎にワークシートや振り返りの機会があります。また、提出課題や発表に対してはコメントをします。

《備考》

・体験による学習を中心としますので、主体的かつ積極的な取り組みを期待します。
・履修人数等により、授業内容を一部変更することがあります。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	50
授業内課題	50
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	総合表現教育 I の授業目的と内容を理解するとともに、現段階の自分の感覚や表現力を確認する	五感について調べる	45
2	感覚をひらく①	音を介して	身の回りの様々な音を探す	45
3	感覚をひらく②	人やものに触れて	身の回りの様々な触感を探す	45
4	感覚をひらく③	ものを見て	目隠しをして一定時間過ごす	45
5	感覚をひらく④	匂いや味を表して	身の回りの様々な匂いを探す	45
6	身体をひらく①	音と動きで表す	手触りを楽しめるワークを考え	45
7	身体をひらく②	身体で描写する	音を楽しめるワークを考える	45
8	身体をひらく③	動く・動かされる	動きを楽しめるワークを考える	45
9	自分をひらく①	感情を描写する	グループ作品の構想を練る	45
10	自分をひらく②	感情を身体で表す	これまでを振り返る	45
11	自分をひらく③	感情を音で表す	他者で行うワークを考える	45
12	領域を横断して①	自分を表す作品を創作する	ワークの準備と振り返り	45
13	領域を横断して②	自分を表す作品を完成させる	ワークの準備と振り返り	45
14	領域を横断して③	各自の発表	発表の準備と振り返り	45
15	まとめと振り返り	全15回を振り返り、今の自分の感覚や表現力を確認する	今後伸ばしたいところを確認す	45

《専門教育科目》

科目名	総合表現教育Ⅱ			科目ナンバリング	T02S22024
担当者氏名	半田 結, 井上 朋子, 永井 夕起子			担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 2 年 ・ I 期

《授業の概要》

「総合表現教育Ⅱ」では、「総合表現教育Ⅰ」での諸感覚を用いた感覚的な表現を基に、言語、自然、社会などを含めた他分野との領域横断的な表現を体験的に学びます。多様な表現活動を通して、学生自身の感受性、コミュニケーション力、表現力をより一層高めるとともに、子どもの未分化な表現を追体験しながら、幼小連携を意識した新しい表現方法や指導法を探索します。

《テキスト》

必要な資料やワークシートを適宜、授業内で配布します。

《参考図書》

佐藤有紀『「感じ」が伝わるふしぎな言葉 擬音語・擬態語ってなんだろう』少年写真新聞社、2018
清水満・小松和彦・松本健義『表現芸術の世界』萌文書林、2016

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	自分の感覚を磨くとともに、感じたことや思いを豊かに表現できる力を身に付けている。
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	こどもの心身の発達に伴う表現の変化やその対応を理解している。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	表現を広義に捉えるとともに、総合表現教育のあり方を理解し、多様な表現の可能性を探究することができる。

《授業外学習》

・日頃から、身の回りの事象に対して、諸感覚を研ぎ澄まし、感じ取るように心がけましょう。
・芸術作品にも興味をもち、自発的に鑑賞する機会をつくりましょう。

《学習状況・理解度の確認》

授業毎に振り返りがあります。また、提出課題や発表にはコメントをします。

《備考》

・体験による学習を中心としますので、主体的かつ積極的な取組みを期待します。
・履修人数等により、授業内容を変更する場合があります。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	50
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	総合芸術教育Ⅱの授業目的と内容を理解するとともに、現段階の自分の感覚や表現力を確認する。	表現遊びを考える	45
2	感情とつながる①	出合いを楽しむ	表現遊びを実践する	45
3	感情とつながる②	互いに感情を表現する	喜怒哀楽の表現を考える	45
4	言葉とつながる①	オノマトペを感じる	オノマトペについて調べる	45
5	言葉とつながる②	オノマトペを表現する	オノマトペを使った遊びを考	45
6	言葉とつながる③	オノマトペを表現する(発表)	オノマトペを使った遊びの振	45
7	世界とつながる①	世界の文字・あそび等を知る・体験する	世界の遊びを調べる	45
8	世界とつながる②	世界のアートを知る・体験する(アジア・アメリカ)	世界のアートを調べる	45
9	世界とつながる③	世界のアートを知る・体験する(ヨーロッパ・アフリカ)	世界のアートを調べる	45
10	領域を横断して	音楽・造形・身体表現・他の領域の共通要素を見つける	これまでの学びを振り返る	45
11	自然・科学とつながる①	身の回りの自然・科学について知る・調べる	身のまわりの現象を調べる	45
12	自然・科学とつながる②	身の回りの自然・科学を表現する(グループ練習①)	グループで表現を構想する	45
13	自然・科学とつながる③	身の回りの自然・科学を表現する(グループ練習②)	グループで表現を練習する	45
14	自然・科学とつながるIV	身の回りの自然・科学を表現する(グループ発表)	発表の準備と振り返り	45
15	まとめと振り返り	これまでを振り返り、今の自分の感覚や表現力を確認する	伸ばしていきたい点を確認する	45

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育 I	科目ナンバリング	T02S22039
担当者氏名	杉田 律子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

障害児保育・教育の歴史の変遷から特別支援教育の理念を学ぶ。障害特性や個別のニーズに合わせた配慮や教育の方法について学び、インクルーシブ保育について理解を深める。大人との1対1の関係や子どもたちがともに育つことへの視点を持った保育とはどのようなものであるのか、具体的な内容について知識を得ることとともに事例を通して理解をする。他機関との連携や家庭への支援・連携、保育にかかわる協働についても学び、子どもをともに育てることへの意義と方法を理解する。

《テキスト》

『障害児保育—インクルーシブな保育に向けて—』太田俊己編著、青踏社、2022

《参考図書》

必要に応じて、参考文献を紹介する。

《授業外学習》

障害児保育への興味をもち、授業中に紹介した文献や障害児に関わる新聞報道へ注目するなど、授業中にとりあげたテーマについて理解を深める努力をしてください。

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。必要に応じて小テストや課題を実施し、コメントを返す。オフィスアワーや授業の前後での質問に応じる。定期考査では、基本的知識と事例から学習した内容を総合的に理解度を

《備考》

担当者は早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴幼児早期療育教室で勤務歴のある実務経験者
Special Needs education I

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	子どもが仲間のなかで育つことへの視点を持ち、インクルーシブな保育・教育について理解をしている。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	関係機関との連携、家庭への支援や連携についての概要を理解している。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	障害についての知識があり、保育における発達の援助の概要を理解している。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	障害の概念と障害児保育の歴史の変遷を理解し、障害児保育を支える理念を理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	10
授業内課題	20
その他(振り返り課題)	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション/特別支援教育の概要	ノーマライゼーション、インクルージョン、合理的配慮など概要を通して、『障害』や『特別支援きょういく』の理念について理解を深める	障害への自らの認識を振り返る	45
2	特別支援教育の理解①障害児保育の歴史の変遷	障害児保育の歴史の変遷を理解したうえで、障害のある子どもに対する支援と教育における保育施設の役割について学ぶ	テキスト1章、2章の通読	45
3	特別支援教育の理解②インクルーシブ保育	インクルーシブな視点とはなにか、障害児保育が担う役割やインクルーシブ保育・教育にかかわる理念や仕組みを学ぶ。	テキスト1章、2章の通読	45
4	子ども理解と個別支援	アセスメントの手法の理解。アセスメントの重要性と個別支援の計画	授業配布資料の通読、テキスト	45
5	保育の専門性と専門機関との連携	障害児支援において乳幼児教育が果たす役割について。障害児支援の専門機関の理解	テキスト4章の通読	45
6	保護者との連携・家庭支援	保護者の心理面への配慮、家庭支援の考え方について学ぶ、保護者との連携のあり方について考える	テキスト5章の通読	45
7	障害児の理解と援助①知的障害	知的障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト8章の通読	45
8	障害児の理解と援助②自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラム障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト8章の通読	45
9	障害児の理解と援助③ADHD	ADHDの特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト9章の通読	45
10	障害児の理解と援助④発達障害全般、支援の基本姿勢	発達障害に特有の特性を理解し、保育の基本姿勢について考える	配布資料の通読	45
11	障害児の理解と援助⑤教材づくり	発達障害の子どもの特性に合った支援方法である「構造化」に基づいて教材を製作する	教材の立案	45
12	障害児の理解と援助⑥言語障害	言語障害など言葉に配慮が必要な子どもの理解とその特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト9章、言語障害などの	45
13	障害理解教育①クラス全体の取り組み	園における協力体制の構築の方法・連携の意義について学び、園内における事例検討による協働のプロセスについても理解をする	支援体制についての資料を通読	45
14	障害理解教育②障害以外の特別支援が必要な事例研究	障害以外の特別支援が必要な事例を通して、合理的配慮の本質について考え、教師・保育者の役割について考える	事例検討についての資料の通読	45
15	学修のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を確認するための学修のまとめ(60分)を行い、解説(30分)によって理解を深める	これまでの授業内容を復習	90

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育Ⅱ	科目ナンバリング	T02S22040
担当者氏名	杉田 律子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

障害特性や個別のニーズに合わせた配慮や教育の方法について学び、インクルーシブ保育について理解を深める。乳幼児教育に携わる専門職として理解しておくべき知識と技術（『特別支援教育Ⅰ』で取り上げていなかった分野を中心に）を学び、事例を通して具体的な支援方法について考える力を養う。他機関との連携や家庭への支援・連携、保育にかかわる協働についても学び、子どもをともに育てることへの意義と方法を理解する。

《テキスト》

『障害児保育—インクルーシブな保育に向けて—』太田俊己編著、青踏社、2022

《参考図書》

授業内に随時紹介

《授業外学習》

グループごとにテーマを設定し、グループ研究を行うアクティブラーニングの手法を取り入れる。そのため、コンピューター室にてグループ研究の時間を設けるが、授業外においても積極的に文献研究、発表用のスライド作成を行うこと。他者にわかるように説明するプレゼンテーション能力の向上に努めること。

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。必要に応じて小テストや課題を実施し、コメントを返す。オフィスアワーや授業の前後での質問に応じる。定期考査では、基本的な知識と事例から支援方法を考え総合的な力を確認する。

《備考》

必要に応じてアクティブラーニングゾーンおよびPCルームを使用してグループ研究を行うため、積極的に自主学習に取り組むことを期待する。担当者は難聴乳幼児通園施設にて勤務経験のある実務経験者。ア

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	特別支援を必要とする幼児、障害の特性および心身の発達を理解し、特別支援を必要とする乳幼児の課題を理解する。
○ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	特別支援を必要とする幼児の課題を理解し、支援の方法を理解する。
◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解できる。家族への支援について考えることができる。
2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	外国籍の子ども、家庭養護に問題がある子どもなど教育的ニーズのある幼児の困難さとその対応を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	30
その他（振り返り課題）	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	特別支援教育の再考①グループ学習	『特別支援教育Ⅰ』で学んだインクルーシブ保育や特別支援教育の意義の再考し、理解を深めるため、グループごとにノーマライゼーション、	テキスト1、2章の通読	60
2	特別支援教育の再考②グループ学習と発表・評価	講義(1)で作成したスライドを発表、互いに評価を行い合う中で、インクルージョンについての理解を深める。アクティブラーニング	発表スライドづくり	60
3	保育施設内の支援体制づくり①	園における協力体制の構築の方法・連携の意義について学び、園内における事例検討による協働のプロセスについても理解をする	テキスト6章の通読	45
4	保育施設内の支援体制づくり②個別の教育支援計画	特別支援教育に関する教育課程、個別の指導計画及び個別の教育支援計画について	テキスト6章の通読。学習のま	45
5	発達障害の理解と援助①グループ活動	『特別支援教育Ⅰ』で学んだ発達障害をさらに理解するため、グループごとに障害の特性や基本的な支援の方法についての説明スライドを作	テキストの通読	60
6	発達障害の理解と援助②グループ学習と発表・評価	講義(5)で作成したスライドを発表、互いに評価を行い合う中で、インクルージョンについて発達障害の子どもの特性と支援の方法の理解を深め	発表スライドづくり	60
7	障害児の理解と援助①肢体不自由	肢体不自由などの障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト10章の通読	45
8	障害児の理解と援助②病弱、アレルギーなど	病弱、アレルギー、心疾患などの特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト10章の通読	45
9	保健・医療機関との連携	医療的な支援の基礎的事項を理解し、医療機関での保育の取り組みについて学ぶ。病棟保育	配布資料の通読	45
10	障害児の理解と援助③視覚障害	視覚障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	各グループ調査、スライド作成	60
11	障害児の理解と援助④聴覚障害	聴覚障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	各グループ調査、スライド作成	60
12	福祉機関との連携①グループ学習	社会福祉機関など地域の資源を活用した支援の方法について学ぶ。児童虐待、貧困、外国籍の子どもの問題など、障害以外の特別支援が必要な	テキスト12章の通読	60
13	福祉機関との連携②グループ学習と発表・評価	講義(12)で学んだ障害以外の特別支援が必要な子どもの問題をさらに理解するため、グループごとにその問題の概要や基本的な支援の方法に	スライド・発表原稿の作成	60
14	就学への支援・小学校との連携	障害のある子どもの就学に関する諸問題、保護者支援について理解する。小学校および特別支援学校等との連携について学ぶ。乳幼児教育の	テキスト15章の通読	60
15	学修のまとめ	1～14講の学習内容についての理解度を評価するため学習の振り返りを行い、その後の解説により理解を深める。	学習のまとめプリント	60

《専門教育科目》

科目名	保育内容「環境」の指導法			科目ナンバリング	T02S22018
担当者氏名	高畑 芳美			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2 年 ・ I 期

《授業の概要》

現代の乳幼児期を取り巻く環境やその関わりについて専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。環境を通して乳幼児の発達に即した深い学びが実現する過程を保育所、幼稚園、こども園等の実践事例から学ぶ。もの・人・自然・社会などの環境や環境の構成について興味関心を深め、領域「環境」に関わる指導場面を想定し、保育内容を構想する力や指導方法を身に付ける。

《テキスト》

実践例から学びを深める保育内容・環境
環境指導法
小櫃智子編著

《参考図書》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び要領解説書
『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 萌文書林

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等の解説書を熟読し、各領域のねらい及び内容を理解する。
	領域「環境」が乳幼児の発達、成長に及ぼす影響や意義を理解し、具体的な保育の構想に活用することができる。
	実践事例を通して幼児理解を深め、様々な実態、環境に応じた指導計画、指導案を作成することができる。
	身近な環境に積極的にかかわり日常的に感性を磨く。また保育者となる意識を高め、自己の力を高める。

《授業外学習》

幼児教育は「環境を通して行う教育」が基本である。環境に対する豊かな感性が育まれるように、特に自然環境、またその他、身の回りの環境にたえず関心をもち、領域「環境」への学びを深められるようにする。

《学習状況・理解度の確認》

身近な環境に興味関心が広がるように課題学習を実施する。実践事例を通して、ディスカッションやグループワークをし、他の学生の意見を聞いたり発表したりする中で自身の考えを深める。

《備考》

- ・現代の乳幼児を取り巻く環境に興味関心をもち、日頃から情報収集に努める。
- ・科目担当者は幼稚園での保育の経験のある実務経験者

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	30
発表・実技	20
授業内課題	30
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション：環境とは	授業概要、授業目標、評価方法などを確認し、保育における子どもの環境について考える。	「身近な環境」について考える	45
2	保育内容・領域「環境」	領域「環境」の理解を深める。「環境を通して行う教育」の意義について学ぶ。	Part 1 第2章の通読	45
3	保育内容・領域「環境」の展開	乳幼児の発達と環境の関りを発達の特性から読み取り、「環境にかかわる力」を育てるために必要な保育者の援助を考える。	Part 1 第3章の通読	45
4	保育の過程と子どもの理解	1歳以上3歳未満児と3歳以上児の領域「環境」のねらいと内容についてまとめる。	Part 1 第4章の通読	45
5	ものとかかわりの実践	保育の場にあるもの、保育に必要なものを考える。	Part2 第1章の通読	45
6	自然とかかわりの実践	園内マップを書いて発表し合う。	Part2 第2章の通読	45
7	数量・図形とかかわり①	グループで野菜スタンプの指導案を考えた活動の指導計画を立てる。	Part2 第3章の通読	45
8	数量・図形とかかわり②	模擬保育をやってみての結果をグループでまとめる。	模擬保育の振り返り	45
9	標識・文字とかかわり	乳幼児の生活の中で物事の法則性に気付く場面やその他興味・関心をもつ場面について知り、指導の在り方を学ぶ。	Part2 第4章の通読	45
10	身近な日常生活における暮らし・文化とかかわり	地域資源について調べ、グループワークを通して学びを深める。	グループワークのまとめ	45
11	行事とかかわり①	保育における行事について調べる。	Part2 第7章の通読	45
12	行事とかかわり②	行事は子どもにとって「発達」の節目となるもの、その在り方や参加の仕方を考え、発表する。	グループワークのまとめ	45
13	小学校との連携・接続について	道徳の概念、道徳性を育む保育や保育者に必要な倫理観について考える。	Part 3 第2章の通読	45
14	領域「環境」にかかわる現代的課題	ESDや多文化共生について理解する。	Part 3 第3章の通読	45
15	学習の振り返りと確認	学習の振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。 全体講評（質疑応答）	レポートの振り返り	60

《専門教育科目》

科目名	保育内容「健康」の指導法			科目ナンバリング	T02S22016
担当者氏名	日坂 歩都恵			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期

《授業の概要》

領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等の専門的事項についての知識や技能を身につける。幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発育・発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

《テキスト》

『実践例から学びを深める保育内容領域健康指導法』清水将之 相楽真樹子編著 わかば社 2022年

《参考図書》

『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018
『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 2018

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	社会は多様な人種・性格・男女・個性、価値観などで構成されている。多様性の理解から始まる。
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	他者の理解と共に自己の考え、人間性なりを表現できることの大切さを学ぶ。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育の分野の基礎的理解や技術が必要不可欠であり、実際の保育現場で発揮できる力を培うことを理解する。

《授業外学習》

テキストを範囲指定した所や配布資料は必ず通読をしてくる。健康的な基本的な生活に関心を持ち、指定した語句や項目について調べてくる。保育施設等に出向き、地域近隣における乳幼児の行動や遊びの内容、人との関わり等の様子を観察する。

《学習状況・理解度の確認》

課題提出はその内容の理解ができていないか確認する。分からないことは毎授業終了時などで質問を受けつける。

《備考》

学生と応答的關係で授業を展開し、一人一人の学習意欲を高める。クラスの一員である自覚のもと、協調的な受講態度を期待する。グループワークやディスカッションによる授業もある。幼稚園教諭として幼稚園勤務のキャリアアップ経験者による

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他(授業態度)	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 子どもの健康と環境	授業概要、授業方法、評価方法などの説明 健康に関する世界の流れや人間の権利と健康について学ぶ。	テキスト通読 p. 8～p. 12	45
2	保育内容・領域「健康」	保育内容の全体構成と領域「健康」を理解する	テキスト通読 p. 16～p. 24	45
3	保育内容・領域「健康」の展開	乳児・1歳以上3歳未満児、3歳以上児における領域「健康」の展開について理解する	テキスト通読 p. 30～p. 43	45
4	保育の過程	保育の過程、保育の計画、指導計画の作成について理解する	テキスト通読 p. 44～p. 52	60
5	乳児(0歳児)の実践	乳児(0歳児)の心地よい生活、遊びへのかかわり等の実践を学ぶ	テキスト通読 p. 54～p. 61	45
6	1歳以上3歳未満児の実践	1歳以上3歳未満児の生活リズム、全身を使った遊びのかかわりについて学ぶ。	テキスト通読 p. 62～p. 69	45
7	基本的な生活習慣を身につける実践	園生活、食、清潔に関するかかわりについて学ぶ。	テキスト通読 p. 70～p. 78	45
8	さまざまな遊びの実践	運動遊びや群れ遊びの重要性を理解する。	テキスト通読 p. 80～p. 95	45
9	環境とかかわりながら遊ぶ実践	環境とかかわって遊ぶことの重要性について理解する。	テキスト通読 p. 98～p. 110	45
10	指導計画の作成	指導案作成の考え方とポイント、活動内容や環境構成を学ぶ。	テキスト通読 p. 44～p. 51	45
11	模擬保育と評価	模擬保育の振り返り、保育の課題について学ぶ。	模擬保育準備・評価	60
12	子どもの事故や病気	事故や病気等の対応、大きな事故や小さな事故の対応について理解する。	テキスト通読 p. 120～p. 128	45
13	感染症の予防と対応	保育における感染症の予防と対応について学ぶ。	資料	45
14	安全教育と保健計画	保育における安全教育と安全管理について学ぶ。	テキスト通読 p. 120～p. 126	45
15	子どもの健康の今後の課題と展望	学修のまとめ	全体的な学修の振り返り	90

《専門教育科目》

科目名	保育内容「言葉」の指導法			科目ナンバリング	T02S22019
担当者氏名	石川 恵美			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期

《授業の概要》

子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域を関連させて理解を深める。その上で、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導計画を想定して保育を構想する方法を身に付ける。PC等ICT機器を使用した指導計画や、パワーポイントを作成する。

《授業外学習》

子どもと関わる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達に理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレポーターを増やす。

《テキスト》

『新・保育と言葉』石上浩美編 嵯峨野書院 2022年

《学習状況・理解度の確認》

質問は、授業中・授業終了後に受け付ける。

《参考図書》

文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』他
適宜、授業内で紹介する。

《備考》

視聴覚教材等ICTを活用した授業を展開する。保育実践教室等で授業を実施する場合もある。
担当者は、保育士・幼稚園教諭として保育所・幼稚園勤務歴のある実
務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	乳幼児の言葉の発達過程を理解し、言葉の機能について説明できる。
○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を行う。
◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	子どもの発達に応じた児童文化財の意義について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容とは。絵本の読み聞かせの意義について。	テキスト通読	45
2	言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践①	0.1.2歳の「保育内容・言葉」のねらい及び内容を理解し、保育実践について学ぶ。	テキスト通読	45
3	言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践②	3.4.5歳の「保育内容・言葉」のねらい及び内容を理解し、保育実践について学ぶ。	テキスト通読	45
4	言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践③	保育実践上の留意点と保育者の援助及び配慮について学ぶ。	テキスト通読	45
5	気になる子どもに対する「言葉」の支援	幼稚園・保育所における「言葉」の支援方法・実践事例について学ぶ。	テキスト通読	45
6	言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり①	指導案作成上の留意点について学び、指導計画を立案する。	指導計画立案	60
7	言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり②	模擬保育を通して実践する。	模擬保育準備	60
8	言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり③	模擬保育を通して実践し、評価・振り返りを行う。	模擬保育振り返り	60
9	保育内容「言葉」と保育実践(1)	紙芝居の特徴や演じ方を学び、実践する。	紙芝居について調べる	45
10	保育内容「言葉」と保育実践(2)	パネルシアターの特徴や演じ方を学び、実践する。	パネルシアターについて調べる	45
11	言葉遊びの体験	しりとりやなぞなぞ等、言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊びを体験する。	言葉遊びについて調べる	45
12	これからの幼児教育の課題と保育内容領域「言葉」	小学校の教科等とのつながりを理解し、保育・教育環境を取り巻く現状と今後の課題について考える。	テキスト通読	45
13	創作絵本発表会(1)	パワーポイントで作成した資料を提出した後、自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせを行う。	創作絵本読み聞かせ練習	45
14	創作絵本発表会(2)	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせを行う。	創作絵本読み聞かせ練習	45
15	学習のまとめと振り返り	授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。	到達目標の達成度を確認する	60

《専門教育科目》

科目名	保育内容「人間関係」の指導法			科目ナンバリング	T02S22017
担当者氏名	高畑 芳美			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期

《授業の概要》

領域「人間関係」がめざすものについて学ぶとともに、人とのかかわりを育む保育について、自分、子ども、教材の3つの視点から学ぶ。また、模擬保育や事例検討、カンファレンスを通じてより良い保育の在り方について考察し、幼児を多面的に理解しながら実践力を身につける。

《授業外学習》

人とのかかわりをはぐくむ遊びについて自分なりに調べ、模擬保育の準備をしておくこと。
配布資料を読み、自身の子どもへの理解のあり方やかかわり方について考察すること。

《テキスト》

保育内容指導法<人間関係>-確かな実践力を身に付ける-
浅井拓久也 編著
萌文書林

《学習状況・理解度の確認》

授業内のグループカンファレンスへの参加態度および、振り返りシート・課題の内容を確認し、フィードバックする。

《参考図書》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領

《備考》

- ・グループワークやディスカッションを行う。
- ・担当者は公立幼稚園に勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	発達やねらいに基づく保育展開の重要性を理解し、実践することができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	幼児を多面的に理解する力をつけ、よりよい保育の在り方を考察し、展開する。
○ 2-3多様な子どもの発達を支援できる	幼児の多様性を理解し、それに応じた支援の在り方について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	30
発表・実技	40
授業内課題	10
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	保育内容の指導方法の目的と意義	授業の目的や全体計画を把握し、理解する。	シラバスを確認する。	45
2	領域「人間関係」の目的と意義	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育者の役割や心構えについて理解を深める。	幼稚園教育要領の該当部分通読	45
3	0.1.2歳児の人と関わる力の育ちを考える	人と関わる力を育むふれあい遊びのもつ発達の意味を考え、0.1.2歳児の対人関係の育ちが捉えられるようにする。	0.1.2歳児の発達について復習し	45
4	3.4.5歳児の人と関わる力の育ちを考える	ルールのある遊びを通して育つ規範意識や道徳性など3.4.5歳児の対人関係の育ちが捉えられるようにする。	3.4.5歳児の発達について復習し	45
5	ケーススタディ：子どもの葛藤場面について考える	葛藤場面を通しての子どもの対人関係の育ちを読み取る力を身に付ける。	観察記録の書き方のポイントを	45
6	ケーススタディ：特別な配慮を必要とする子どもへの関わり	特別な配慮を必要とする子どもの保育場面での保育者の支援を考える。	特別な配慮を必要とする子ども	45
7	0.1.2歳児の指導案の作成	0.1.2歳児の保育指導案の作成ポイントや気を付ける点について理解する。	指導案の書き方のポイントを調	45
8	3.4.5歳児の指導案の作成	3.4.5歳児の保育指導案の作成ポイントや気を付ける点について理解する。	指導案作成の留意点について調	45
9	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する1	子どもとのやりとり遊びを楽しむための教材を考える。	教材の案を考えておく	45
10	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する2	個人で考えた教材を作成する。	作成する教材について必要な準	45
11	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する3	教材発表を通して、子どもの人と関わる力を育む保育者としての姿を自己評価・他者評価する。	発表の準備をする	45
12	模擬保育の指導案の作成	人間関係に着目した保育指導案をグループで作成し、そのポイントについて学ぶ。	これまでの授業内容の整理し、	45
13	模擬保育のグループワーク	グループで、保育者と子ども役を決め、模擬保育の練習をする。	模擬保育に必要な教材を準備す	45
14	模擬保育の発表と振り返り	各グループの模擬保育を発表し、総括と指導案修正を行う。	模擬保育の準備をする	45
15	まとめ	人とかかわる保育の在り方について、これまでの授業内容を振り返り、自身の到達度を確認する。	これまでの学びの振り返り	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容「表現」の指導法			科目ナンバリング	T02S22020
担当者氏名	半田 結, 井上 朋子, 永井 夕起子			担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2 年 ・ I 期

《授業の概要》

保育内容の各領域が相互に関連しあっていることをふまえながら、身体・造形・音楽などの表現活動を中心に、子どもの実態に応じた保育内容の展開や指導法について学びます。身体の動きや五感、音、リズム、ものの色や形、質感など、身の回りにある表現のきっかけとなる様々なものや方法を通して、表現活動の特徴や面白さを確認しながら、それらの応用や展開、発展を考えていきます。子どもが主体的に取り組めるような総合的な表現活動を構想、計画、実践できる力を身につけます。

《テキスト》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018

《参考図書》

岡・金澤『演習・保育内容表現—基礎的事項の理解と指導法』建帛社、2019

《授業外学習》

○子どもと直接関わる機会をもったり、子どもに関するニュースや書籍等を読んだりして、子どもを多面的に理解するよう努めましょう
○音楽や美術、ダンス、パフォーマンス、詩、文学など、自分の興味・関心のある分野について、積極的に調べたり楽しむようにしましょう

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業ごとに、学習内容の確認と次回授業への準備・予習があります。提出物や課題に対してはコメントや評価をし、必要な場合は再提出を求めます。

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	こどもの発達や個性をふまえて、表現の多様性を理解している
○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	領域「表現」のねらいやねらいや内容をふまえ、子どもが身につけていく内容と指導上の留意点を理解している
◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	領域「表現」のねらいや内容をふまえつつ、子どもに応じた保育を構想・計画することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	50
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	領域「表現」のねらいと内容	領域「表現」のねらいと内容について、子どもの表現をとって理解する	領域「表現」のねらいを理解する	45
2	子どもの表現とその指導法①	子どもが遊ぶ(表現する)具体的な場面から、その表現の背景や要因を考える	映像資料を見て気づいたことを	45
3	子どもの表現とその指導法②	子どもが遊ぶ(表現する)場面の考察を通して、子どもの表現がさらに広がる指導方法を考える	映像資料の背景について考える	45
4	インクルーシブ保育における表現活動	様々なニーズのある子どもやインクルーシブ保育における、表現活動や遊びの可能性について考える	学んだことを整理する	45
5	五感や身体を使った表現活動①	五感や身体を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さを整理する	五感や身体を使った遊びを考	45
6	五感や身体を使った表現活動②	総合的な表現活動の留意点や展開を考えると共に、インターネットで発信されている実践例から自らの保育構想の向上に取り組む	他の実践例を調べる	45
7	音や声、楽器を使った表現活動①	声や音、楽器を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さを整理する	音や楽器を使った遊びを考える	45
8	音や声、楽器を使った表現活動②	総合的な表現活動の留意点や展開を考えると共に、インターネットで発信されている実践例から自らの保育構想の向上に取り組む	他の実践例を調べる	45
9	身近にあるものを使った表現活動①	身近にあるものやリサイクル材を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さを整理する	身近な物を使った遊びを考える	45
10	身近にあるものを使った表現活動②	総合的な表現活動の留意点や展開を考えると共に、インターネットで発信されている実践例から自らの保育構想の向上に取り組む	他の実践例を調べる	45
11	総合的な表現活動を考える①	総合的な表現活動を実践するために、指導案を作成する	指導案のテーマを考える	45
12	総合的な表現活動を考える②	指導案に沿って、教材研究を深める	他の実践例を調べ指導案を作る	45
13	総合的な表現活動を考える③	総合的な表現活動を指導案に沿って実践し、振り返りを行う	表現活動を実践する	45
14	総合的な表現活動を考える④	総合的な表現活動の振り返りを通して、指導案の改善や展開を考える	指導案の振り返りを行う	45
15	振り返りとまとめ	これまでに学んだことの振り返りを通して、保育の場における表現活動についてまとめる	学びの振り返りを行う	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容総論			科目ナンバリング	T02S22015
担当者氏名	日坂 歩都恵			担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期
					2 年 ・ II 期

《授業の概要》

保育所や幼稚園等での生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解する。
 具体的な子どもの姿と関連づけながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。
 現在の保育の課題を探り、今後、見通した保育の実践する力を養う。

《授業外学習》

○体験を通して、保育実践のあり方を理解する。
 ○授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
 ○保育に関する専門図書や絵本等に関心を持ち、多くの書物を読む。

《テキスト》

小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり編『保育実践につなぐ 保育内容総論』 みらい 2021年

《学習状況・理解度の確認》

レポート等の課題は提出、返却し、学生の理解度を確認する。

《参考図書》

文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2018年、厚生労働省 『保育勝保育指針』 フレーベル館 2018年、内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』 フレーベル館 2018年

《備考》

○一人一人が主体的に授業に参加し学習してほしい。保育に役立つ演習や講義を中心に進める。科目担当者は、幼稚園教諭経験のある実務経験者である。Theory of Childcare Contents

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	生活・遊びの中の学びについて具体的事例や演習を通して理解し、表現することができる。
◎	2-1 自ら課題を発見しようとする力	保育をめぐる諸課題を察知し、情報を収集し、解決に導こうとする。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	保育内容とは何か	保育内容とは何か、子どもの姿等から学ぶ。	テキストp.3～p.12通読	45
2	保育内容の捉え方	保育所保育指針と幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領が示す保育内容の構造を理解する。	テキストp.19～p.28通読	60
3	子どもの理解と評価の考え方	保育の全体構造と保育内容や養護にかかわる保育内容、保育内容のとらえ方を理解する。	テキストp.33～p.45通読	60
4	保育内容の実践	制作等を通し、「ねらい」及び「内容」について考える。	テキストp.40～p.59通読	60
5	指導計画の作成の理解	保育の指導計画（部分保育）を作成する。	テキストp.53～p.68通読	60
6	指導計画の作成の理解	保育の指導計画の振り返りと評価の視点を考える。	テキストp.53～p.68通読	60
7	遊びや生活と保育内容	遊びや生活の中で何が育つのか考え理解する。	テキストp.73～p.85通読	60
8	養護と教育が一体的に展開する保育	養護と教育が一体的に展開する保育を学ぶ。	テキストp.91～p.101通読	60
9	子どもの主体的を尊重する保育	主体性を尊重した保育について学ぶ。	テキストp.105～p.115通読	60
10	環境を通して行う保育	子どもの主体的な育ちを支える環境のあり方を理解する。	テキストp.121～p.136通読	60
11	個と集団の育ちを支える保育	「個」と「集団」の育ちを支える保育者に求められるものについて学ぶ。	テキストp.141～p.152通読	60
12	家庭や地域との連携を踏まえた保育	家庭や地域と園の連携が求められる背景やその意味について理解する。	テキストp.157～p.169通読	60
13	小学校への接続をふまえた保育	小学校教育との接続にあたっての留意事項について理解する。	テキストp.173～p.178通読	60
14	保育の多様な展開	長時間保育、特別な配慮を要する子どもの保育や多文化共生保育を理解する。	テキストp.193～p.207通読	60
15	保育内容の歴史的変遷と社会的背景	保育内容の歴史をみながら、保育内容の意義とあり方を理解する。	テキストp.211～p.227通読	60

《専門教育科目》

科目名	幼児理解	科目ナンバリング	T02S22027
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

子どもの内面世界を理解し子どもの心に寄り添うための多様な方法について学ぶ。また子どもの内面を理解したうえで子どもの成長と保護者による子育てに対してどのような支援の仕方があり得るのかについても考えていく。

《授業外学習》

幼児教育や保育に関わる新聞報道などにも関心を持ち、子どもと子どもを取り巻く環境についての認識を深めてもらいたい。子どもを観察したり、子どもと関わる機会を作ったりすることで、子どもの内面に目を向けることを習慣化していこう。子どもを観察し、理解したことや感じたことを正しい日本語で記録することができるようになるために、日頃から語彙力の向上に努めること。

《テキスト》

『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』
高嶋景子・砂上史子（編著） ミネルヴァ書房 2019

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業時に課す授業内課題の進行状況から学習状況と理解度を確認する。
質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《参考図書》

『子ども理解と援助 一子ども・親とのかかわりと相談・援助の実際ー』 名倉啓太郎（監修） 寺見陽子（編著）
保育出版社 2004

《備考》

Theories and Methods of Understanding Young Children
受講学生どうしのディスカッションを交えて学習する。「先生」と呼ばれる専門職を目指していることを心得て、授業に臨むこと。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	環境との関りを通して子どもの発達が進むことを理解することができる
○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	保護者の思いに共感的な理解を示し、子どもの成長に関わる心理的事実に基づいて支援ができるようになること
○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	心理学の観点から、日々変化する子どもの心の動きについて理解することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	60
その他（授業への積極的参加度）	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	幼児理解の重要性	子どもの内面世界に目を向けて行動の意味を理解することがいかに重要かに気付く。	プリントを用いたの振り返り	45
2	子どもを理解するとは（1）	子どもの何気ない行動に隠された意味を探る。	プリントを用いたの振り返り	45
3	子どもを理解するとは（2）	子どもの行為の意味を、状況要因を考慮に入れて考える。	プリントを用いたの振り返り	45
4	子どもを取り巻く環境の理解（1）	子どもを取り巻く環境を重層的に捉える。	プリントを用いたの振り返り	45
5	子どもを取り巻く環境の理解（2）	子どもの意欲を刺激する環境について考える。	プリントを用いたの振り返り	45
6	子どもを発達の観点から理解する（1）	子どもを見つめる大人の発達観について考える。	プリントを用いたの振り返り	45
7	子どもを発達の観点から理解する（2）	関係性の発達から子どもの発達を把握する。	プリントを用いたの振り返り	45
8	保育者に必要なカウンセリングマインド（1）	子どもと関わる保育者の基本的姿勢について、カウンセリングマインドの観点から考える。	プリントを用いたの振り返り	45
9	保育者に必要なカウンセリングマインド（2）	子どもを共感的に理解することの意味を考察する。	プリントを用いたの振り返り	45
10	子どもを観察し記録に残す	保育における観察と記録の重要性について理解する。	プリントを用いたの振り返り	45
11	保育カンファレンス	子どもの行動の意味を、他者の視点からとらえ直す。	プリントを用いたの振り返り	45
12	個と集団の育ち	個性化と社会化の両立をいかに図るかについて考察する。	プリントを用いたの振り返り	45
13	子どもの特別なニーズ（1）	特別なニーズのある子どもに寄り添った保育の在り方を考察する。	プリントを用いたの振り返り	45
14	子どもの特別なニーズ（2）	特別なニーズのある子どもを共同体で支援する方策を考える。	プリントを用いたの振り返り	45
15	保護者支援のありかた	保護者支援の実際を様々な事例から理解する。	学習内容の総復習	120